エゾマツ

2010年秋季号 94

北海道ボランティア・レンジャー協議会

目　　次

会長挨拶　　「かけがえのない地球」　　会長　春日　順雄

1自然観察会から

・夏の森の観察会に参加して　　札幌市　目時　富美雄

・芸術の森周辺観察会　　〃　無芸　森子

・南区芸術の森周辺観察会に参加して　　〃　小村

・観察会の感想　「秋の観察会に参加して」　　〃　山本　孝次

・観察会「森の匂いをかごう」に参加して　　〃　松本亜由美

・今　なぜ「戦争の傷跡」か　　〃　浅見　文貴

＜忘年会の案内＞

＊様似研修　　会長　春日　順雄

＊オホーツク支部　秋季研修会に参加して　　札幌市　阿部　忠

＊小樽支部観察会

・軍用道路自然観察会に参加して　　小樽市　太田　淳子

・雷電山登山観察会に参加して　　〃　Aさん

2江別の先生方、生徒をそれぞれ自然観察会に案内して

・江別市の教職員の皆さんを案内して　　広報部

・子供達を案内して　　江別市　土屋　忠司

・心あたたまるメッセージをいただく　　江別対雁小学校のみなさんから

・『野外観察会を終えて』　　江別江陽中学校　竹澤太貴

3特集（1）……オオハンゴンソウ防除に関して

・オオハンゴンソウ防除Photoレポート　　札幌市　安倍　隆

・野幌森林公園特定外来植物の防除作業　　〃　川原　一成

・野幌森林公園におけるオオハンゴンソウ駆除活動　　江別市　青木　克将

4作品展　　写真集　「自然に魅せられて」

5特集（2）ボランティア・レンジャー育成研修会　　自然ふれあい交流館

・平成22年度　ボラ・レン育成研修会について　　副館長　松井　則彰

・平成２２年度　ボラ・レン育成研修会　　研修部　菅美紀子

・吉田さんの紙芝居による解説風景　　＜新加入者名＞

・心洗われる思い　　札幌市　国吉　守

・ボラレン育成研修会に参加して　　余市町　秋田　実

6連載　チョウのこと　　苫小牧市　谷口勇五郎

7会員の独自な活動の紹介コーナー　　五十嵐さん、谷口さん　佐野さん

8第2回　役員会の報告

9＜北の芸術家シリーズ＞①　　ビッキ「四つの風」　　広報部

＜編集後記＞

かけがいのない地球—Onlyone　Earth

春日　順雄

1961年4月12日、人類初めての人工衛星が地球を一周して地球に帰還しました。地上に降り立ったガガーリンの言葉、「地球は青かった」は、人類が初めて宇宙から見た地球の姿です。

以後、地球を宇宙の視野から見たときに、それはそれは荒涼とした生物を拒む宇宙空間の中で「地球はオアシスだ！」、「宇宙船、地球号」という考えが出てきました。「宇宙船地球号」をネットで検索してビックリ。「宇宙船地球号」の概念規定が立派に出来ていました。月日の経過とともに言葉として成熟していました。

2008年4月12日、「月周回衛星・かぐや」は、満月ならぬ「満地球」が月の地平線から姿を現す様子を撮影しました。太陽・月・地球が一直線に並ばないと起こらない現象ですから、珍しいそうです。新聞に掲載された地球の美しさに感動しました。多くのいのちをやどす地球は、あくまでも青く、海原ひろがり、大陸ひろがり、白雲流れ、穏やかな姿でありました。

奇跡の星「地球」

宇宙ひろしといえども、地球のように穏やかで生命を宿す星は、一つとしてありません。星、火星、月など、地球の兄弟星と衛星もまた、しかりです。地球は奇跡の星です。その奇跡のいくつかを追い求めてみます。

地球誕生は奇跡そのものです。たくさんの隕石が降りそそいで、地球は質量を増していきます。隕石の衝突のエネルギーで地球表面は灼熱のマグマ状態になり隕石に含まれる水や二酸化炭素などが気体として放出されます。地球は厚い雲に覆われた状態になります。やがて地球の冷却とともに、大気中の水蒸気が雨となって降り注ぎます。休みなく何年にもわたっての豪雨です。こうして、海が生まれました。

この海の中で単細胞生物が発生し、進化の果てに生物みなぎる地球が誕生したことも奇跡であります。

地球は「水の惑星」ともいわれます。水は0℃～100℃の間で存在します。金星は酷暑の星ですから水は存在しません。火星は極寒ですから、氷はあったとしても水はありません。ですから、地球の水の存在そのものも奇跡なのであります。

人間が生きていくためには、さらに温度が絞り込まれます。作物の植物の成長などを勘案すると、人間が生きていかれる温度範囲は、15℃～35℃ということになるでしょう。温度間20度での生活。このような温度の維持はどのようになされているのでしょう。太陽と地球の絶妙な距離が、それをもたらしました。今の距離より近くても、遠くても駄目なのです。

最近のことですが、地球型の惑星が見つかったという新聞記事がありました。ただし、その惑星は自転していないそうです。生物が存在するとしたら、惑星の表と裏の境界あ

たりだろうというのです。表は酷暑、裏は極寒の世界ですから、そうなるのでしょう。

いっぽう地球は一日 24 時間で自転しています。太陽からのエネルギーが地球上に満遍なく降り注ぎます。そして、昼と夜が生まれます。自転は大気の攪乱、海流などの攪乱の源にもなっています。

地球の回転軸が、公転面に対して 23.5 度、傾いていることも奇跡です。このことによって、南半球と北半球の季節が反対であったり、春・夏・秋・冬の四季の変化をもたらしました。特に温帯では、四季の変化が顕著に現れます。

大気の存在も奇跡です。地球の質量が関係しているのではないでしょうか。質量が小さいと引力が小さいですから気体は宇宙空間に拡散してしまうでしょう。大気圏は、高度 80～120 キロメートルです。地球を直径 30 センチのドッチボールぐらいに縮小してみると、大気圏の厚さはおよそ 2，8 ㎜という数値が算出されます。きわめて薄いんです。まさに薄皮のごとき膜のような厚さです。この中に対流圏や成層圏があり、そしてオゾン層があり、地球上の生物を紫外線などから守るバリアの役割をしていることも奇跡です。対流圏では、絶えず大気の攪乱があり気象現象が現れます。赤道付近の暑さを温帯に運んだり、両極の寒気を低緯度地方に運んだりもします。

そして、水の大循環があります。大気の移動によって水の蒸散、雲の発生、降雨によって大地を潤します。流れ下る川は土砂を運び、栄養成分を運び、流域と海を潤します。

このような奇跡と偶然の果てに生命（イノチ）みなぎる、今の地球があります。このかけがいのない地球が人間の活動によって危なくなってきています。

私たちが日常当たり前と思って享受している様々な地球からの恩恵は、宇宙ひろしといえども地球上だけのことなのであります。その地球が人間の活動によって危なくなってきました。[かけがいのない地球—Onlyone Earth] だから、それを失ったら、壊したら、一番困るのは私たち人間です。大事にしていかなければなりません。

自然保護活動の多様さ—かけがいのない地球を守るために

環境道民会議の総会に出ても、かっては、我がボラレンのように環境保護活動を主とした団体が主流であったように思います。最近は、二酸化炭素の排出量軽減や 3R 運動に取り組むなど、直接に地球環境保持に関わるたくさんの企業が参加するようになってきました。それが主流になってきました。[かけがいのない地球—Onlyone Earth]を守るためには、多くの切り込み点があります。環境保護思想の普及も大事にしながら、より実践的な行動が求められている時代なのでしょう。地球の温暖化は待ったなしです。それほど「かけがいのない地球」は、危機に瀕しているということでありましょう。

とき、あたかも COP10 が名古屋で開催中です。

テレビも COP10 特集を組み、生物の多様性と生物の多様さの中で生活している人間について放送しています。日本国民みんなが、[かけがいのない地球—Onlyone Earth] を意識してくれるようになって欲しいものであります。

夏の森の観察会に参加して

札幌市西区西野　目時　富美雄
（開拓の村　ボランティア）

春は花、初夏は目に沁みとおる新緑、秋は錦織なす紅葉の時節。私は時にまかせて、目の保養、心身の安息のために近くの琴似発寒河畔、円山八十八ヶ所などを散策することを楽しみにしている。草木についての知識の持ち合わせがない私はただ漫然と歩くだけである。

この度、「８月５日、夏の森の観察会」の案内に接した。この観察会では、植物の生態など新たな角度から自然との接し方、楽しみ方、観察法を得られるのではないかと期待し参加を決めた。８月５日の天気は晴れ、気温 31,5 度と予報されていた。

当日の朝、開拓の村の入口前で参加受付が開始。10 時 15 分、主催者側からの挨拶、観察にあたってのマナー、注意事項の説明、参加者総数約５０名、気温 30 度と発表された。８人ずつの班編制、班ごとにボランティア・レンジャーの解説員が配置された。班ごとの解説員から詳細な説明がなされ、順次入園した。

各要所で解説員から樹木の葉の形、特徴、特性など懇切丁寧な解説を聞きながらコースの奥へと進んだ。

もとより基礎知識のない私には解説のすべてをインプットすることはできないが、それでも何種類かの樹木の見方が印象として深く刻みこまれた。今後、この知識に少しでも知識が積み重なる契機となれば幸いである。

全体を通して感じたことは、自然界の世界は決して他種の領域、成長を侵すことなく、それぞれの種の備わった特質、特性を活かすためにほどよい棲み分けをし、共生のバランスを保ち、自らの種を守り伝えていく自然界の輪廻転生（りんねてんしょう）の場に触れる思いがした。

「万物の霊長」といわれている人間界の姿はどうであろうか?日々いさかい、争いなど忌まわしい事件が絶えない現実である。「霊長」とは最もすぐれたものという意である。人間は本当に万物の霊長だろうか?霊長になり得る素養が生まれながらにして与えられていると思うが、それを磨かずして霊長にはなり得ないと考えているのだが、私の偏見だろうか。

人間はもっと謙虚な姿勢で、自然界から多くの智恵を学ばなければならないものだと考えさせられた観察会だったと思っている。

このようなチャンスを与えてくれた主催者、ボランティア・レンジャー、関係者の方々に深く感謝します。

芸術の森周辺観察会　　２０１０年7月１１日（曇り・２３℃）

北海道ウオッチングガイドの行事案内をみて、「芸術の森周辺」ってどの辺りなのか興味があり参加しました。

綺麗に整備されながらも自然がいっぱいの中を歩き、特に真駒内川沿いは何処かの景勝地では？と錯覚を起こしそうな素敵な場所でした。レンジャーの方の経験に基づいた説明（植物、昆虫、地質に場所柄絵画の解説）がとても分かりやすく、生き物たちの自然の摂理に感動した一日でした。

涼しく、虫刺されもなく快適な観察日和でしたが、参加者が少なく残念でした。

＊写真は初めてみて感動したスカシダワラです。

無芸　森子

南区芸術の森周辺観察会に参加して

初めに、自然を観察するまでの注意点、気をつける事を話して下さり安心できた。

自然の楽しみ方のひとつをお教えてもらえた。

木の名前からくる語源が日本やヨーロッパの歴史とかかわっている事で興味深かった。

芸術、美術にもふれる行事に参加でき充実した一日を過ごせた。

2010 ,7 11

小村,

＜観察会の感想文＞

観察会の名前：「秋の花でにぎわう森を歩こう」　日時：９／１２
1）氏名：山本孝次　2）〒063-0031
3）住所：札幌市西区西野一条８丁目５－１５

「秋の観察会に参加して」　　山本 孝次

「セイタカアワダチソウ」から始まり、「オオカメノキ」まで沢山の花･実を教えてもらい、今日は徳をした気持ちになった。勿論野幌森林公園には、野の花の撮影のため、数十回も訪問しているが、ややもすると偏った場所に行っていたと思う。参加者は指導員の説明で花の名前等を必死に記録している姿は前向きな方だと思い、見習うところが多かった。

今回は秋の花・実が中心だったが、初めて見て驚いたことが多かったと思うが、是非この実と春の花を組み合わせた“対”で覚えて欲しいと思った。

私も写真を始めたとき、「コウライテンナンショウ」のあの真っ赤な実を見て、これは何の実か？と疑問をもち、それから名前を知り、そして春の花の時期に確認することにより、改めて一生忘れない写真のモデルになっているからだ。

今日の観察会が、野幌森林公園を知ったり、野の花を覚える「キッカケ」づくりになれば良いと思った。今回は沢山の方との団体行動なので、説明をしっかりメモしておいて、後日個人的にゆっくり同じコースを探索すると頭にメモリーされるのではないだろうか。

五木寛之著「人生の目的」の中で、“セイタカアワダチ草の眺め”のエッセーを思いだした。まっ黄色な“セイタカアワダチ草”の、泡立つ黄色い海のような花々が一面に広がっているのを目にして、がく然したことがあった。その十数年後、不思議なことに“セイタカアワダチ草”があまり目立たなくなっている。“セイタカアワダチ草”は、人間の背丈よりもっと大きく茂って、周囲の他の草々を枯らしてしまうぐらいの生命力を持っているため、人々からうっとうしい思いで眺められる花だが、十数年ぶりに見ると小さくしおらしい気がした。関西では“セイタカア

ワダチ草”が、小児喘息とかアレルギー性疾患の原因になるという説があり、地方自治体などで駆除運動を展開した経緯があったようだ。その結果ススキとあれほど猛烈な激戦をくり返していた“セイタカアワダチ草”が、その土地や風土に慣れ親しんでてきたようだ。

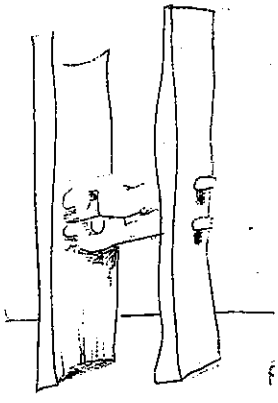
野幌森林公園も、数年前の台風の倒木等により生態系が変わったと思うが、元に戻るのに何年位かかるのだろうか？　野の花の撮影に良く訪問するが、以前このあたりに目当ての花があった筈と探すが、中々見つからない。今後「自然ふれあい交流館」の“森じょうほう”を小まめにチェックし、自分の足で確かめるしかないのだろうと思っている。

—以上—

(本文のみ：987 文字)

《北の芸術家シリーズ》①から

にも思えてくる。又、晩年の作品「集呼吸」は—いくつかの制作のバリエーションがあるが—ある作品は外に向かって静かに呼吸をし、他の作品は呼吸を通して自然と自然（人間）が力強く結ばれているように見える。そこには自然からの根源的なメッセージがあるように思われる。



芸術的才能のない私が、砂澤さんの独創的造形の世界に関して、拙い文を書いてしまったような気がする。実は、旭川の居酒屋で偶然のことであるが、数回会って話す機会があって教えられことが多かった。その時の印象では、大きな体、丸太のような腕、そして自然の本質を読み解く鋭く繊細な感受性とそれを造形として表現するしなやかな手を備えていることに感心させられた。親友であったドロカメ（高橋延清）さんの詩「ビッキー」から読みとられるように酒もとても強かった。

彼は制作の現場である音威子府に来るように何度も誘ってくれた。残念なことに廃校を利用した仕事場を訪れる機会を失ってしまった。

＊なお、カットは「砂澤ビッキ—素描の世界」（道近代美術館）から引用

観察会：「秋の森の匂いをかごう」に参加して（10／14）

札幌市　松本 亜由美

今回、新規会員の藤巻さんの誘いで、久々に腕章を腕に通し半年ぶりにボラレンの活動に参加しました。今回は、下見にも参加してなく、久々の参加ということもあり、補助として解説技術を学ぼうかと考え参加したのですが、午後の部で一班受け持ち解説をすることになりました。心の中では、「まだ解説は上手くないけど、良いチャンスだ！」という思いながらも緊張と不安でいっぱいでした。

午前は佐々木さんにつき、どのような事を伝えようか、また、どのように説明をしたら良いのか考えながら佐々木さんの解説を聞いていました。そして、お昼休みに箇条書きでノートに午前中のイメージした事を書きだし、午後の観察会に挑みました。午後は菅さんと共に回ることになり、いざ解説を始めてみましたが、どこに何があり、紅葉もどの程度進んでいるのかなど森林の中の様子がイマイチわからないままのスタートだったので、一人でオドオドしながらの始まりになってしまいました。ただ、このままオドオドしていてもしょうがないので、できるだけそういう素振りは出さないよう、解説をしようと心がけることにしました。今までの観察会の下見やテレビで知ったこと、また、大学のサークルで学んだことを基にタネのこと・ヒッツキムシのこと・指標植物のこと・林床のことなど菅さんのご協力のもと解説をしました。その中で、参加者の方とのやり取りの最中に「『車前草』とは何の植物の事でしょう？」と質問した時は、参加者の方も食いついて下さったので、私としては嬉しくてしょうがなかったです。また、午前中に佐々木さんから出された宿題で、「『アケボノシュスラン』を探し、皆さんに見せる」という課題もあり、アケボノシュスランを探しながら前へと進んで行きました。そして、アケボノシュスランを見つけたのですが、もちろんのこと、花が咲いていることはなく、来年こそ花がついたアケボノシュスランを見るという目標ができました。

今回、半分のコースを観察会の解説員として参加させていただきましたが、まだまだ私自身の経験が少なく菅さんに頼りきってしまったという反省がありました。また、私自身の植物の特徴・見分け方に限らず、外来種がどのように日本に定着したか、また、人がどのように自然と関わってきたかなどの知識のなさを痛感することができました。その点においては、今後もボラレンの活動を通し、少しずつ学んでいきたいと思います。

そして、今回の観察会に参加してわかったこととしては、参加者の方の中でもリピーターの方が多いということでした。やはり、何回も参加しないとなかなか自然のことを覚えられない、という意見や自然のことをもっと知りたい、という声も聞けました。それにより、私もまだまだ自然のことを知りたいという気持ちを再認識できたので、それが今回の一番の収穫でした。

今　なぜ「戦争の傷跡」か

札幌市　浅見　文貴

秋色に染まらぬ猛暑の反作用なのか、野幌の秋は思いのほか、季節常識をくつがえす、木々の緑も鮮やかに、なおかつ自然のせつり（節理）とはなじまない秋がなおかつ深かった。なぜか。もう雪虫が私のヒタイに張り付く冬のニオイ。「もう来たか」。ガイドの一人は私の発見にこうつぶやいた。今にして思うと、あのうだるような猛暑、避暑地の北海道への来訪者は、旅費の払い過ぎの念に慨嘆しただろうけれども、実は私も、１０月１４日（木）、北海道ボランティア・レンジャー協議会と自然ふれあい交流館が主催した「秋の森の匂いをかごう」のイベントに参加した時、そんな道外観光客の思いを共有しながら、世界３大自然公園にマークされている、北海道野幌が環境問題の日本の原点、自然ユートピアであることを、ことごとく自覚する楽日にひたり参加してゴメン。そう思った。私は去年もこの五感知覚体験に参加させて頂き、触れ合う人々に再会することができた。感動の出合いに感謝する思いで一杯だった。

さて、例によって、前口上が長くなったが、くだんの雪虫がトドマツとヤチダモの間を飛び交い、子孫を残す死生ドラマの演じる森林のステージ、自然と共生する私たちも自然の参加者であり、等しくこの共生を死守する共通認識に異論をとなえる者はいない。

でもね。アメリカは、「核なき世界」を宣言し、オバマ大統領は、平和ノーベル賞をもらいながら、２４回目の未臨界核実験を実行し、自然破壊大元凶の“核”拡散につながる人類生存への大暴挙を恥なく敢行した。北朝鮮、イラン、そして異常な軍事力増強の中国への対抗措置だろうが、いくら核戦力の維持と日本など「核の傘」下を約束する同盟国に対する拡大抑止力の強化とはいえ、決して歓迎されることではない。もっとも矛盾の中に世界生存の現実があるのは承知のことだが、「秋の森の匂いをかごう」自然ガイドのチーム７人に参加した筆者は、強く野幌を戦争から守る思いが。

「牧先生」と私が解説を求めるたびに「先生と呼ばないでほしい」と連発する中、私は「牧さん」と先生呼ばりをカットしたが、牧茂さんは世界３大の自然公園の冠たる自然オアシス・野幌大自然公園が第２次世界大戦の戦禍を浴び、その苦悩にさいなまれた歴史の一端をツアーの面々に紹介してくれた。それは、5、600ｈａあった自然公園が現在は2051haに縮小されたことにも表徴される。それは戦火の中で公園が本州からの避難民に開拓・開墾を許可した政府の緊急措置。牧さんの説明によると、ここが入植者が住んでいた跡地であり、戦後、道庁が用地を買い取り、離農後は植林されたが、自然林と違って人工的な植林は台風に弱く、ご覧下さい。「右は立ち木がなく、どうですか、左は密林の自然林です」。戦争が自然を破壊した姿を嘆いた。日々、自宅近くの野幌を歩く牧さ

んの悲痛の叫びと聞いた。

６・５キロの予定コースを歩くうち、牧さんは何度も戦争と野幌のかかわりを参加者に説明した。なるほど手元にある江別市教育委員会が発行した文献書によると、あの大自然に入植した開拓民が多く、昭和41年から同43年までに、道が用地買収の政治決着で、公園面積は縮小されたとは言え、世界３大公園のメンツを保っている。

軍備増強に次ぐ中国の大領土国家主義、同列のソ連邦は91年破綻してもなお、北方領土にそのスターリニズム的ハケン暴挙を貫ぬき、中国は尖閣諸島の領有権を主張したことなど、国内に目を転じると、沖縄・普天間問題に端発した日米同盟の亀裂。列島を取り巻く環境は……。野幌大森林公園をこよなく愛する自然派のひとりとして、声高に宣言したい。

ノーモア戦争。野幌の大自然を守ろう！　秋の森の匂いをかぐイベントに参加して、ふとその思いがよぎった。（22,・10 ・ 14）

＊＊　忘　年　会　＊＊

- 日　時　１２月４日（土）　６：００
- 場　所　「北のささや」
  札幌市北区北７条西１丁目　NSSビル地下１階
- 会　費　3，５００円

＊連絡は総務部長の三崎さんまで　１２月１日まで連絡を
Ｔｅｌ，　Ｆａｘ　０１１－７７２－０５６３

様 似 研 修

春日　順雄

6月19日（土）

午後1時、アポイ岳調査研究支援センター集合。アポイファンクラブ3名、ボラレン10名は、直ちに五合目の高山植物再生の圃場に向かい、ササ刈り作業を行いました。

夜は、様似山道の学習会。講師はアポイファンクラブの田中さん。冬島海岸の険しさと先人の苦労が理解できました。

幌満川に至る冬島海岸は今でこそ、山中トンネルと幌満トンネル、二つの覆道を経てごく短時間に行けますが、山が海に落ち込み進路を遮っていたのです。この地を通過した伊能忠敬は、測量日誌『寛政十二庚申蝦夷干役志』に、「海岸に高くそびえる大岩を上下する所あり、甚だ危なし。又汐間を見て走る所あり。案内に蝦夷人を連れけれど折ふし潮満て渡ること難く、或は汐にぬれて三、四町も立ち帰る。念仏坂といえる蝦夷人のみ往来する険阻なる山越をなしポロマンベツといえる川へ出…」と記しています。伊能忠敬は様似山道全体を念仏坂と称していますが、今でも、この地に住むお年寄りは、幌満川から上る急坂を念仏坂とよんでいるそうです。

6月20日（月）　「憎っくき鹿め！」

様似山道西口に車の半数を残し幌満の学校跡地に移動。様似山道の東口出発は、丁度8時。幌満川右岸の念仏坂をひたすら登りました。沢筋の道です。水の浸食のせいでしょう悪路で、しかも急坂。それが延々と続きます。これから先どこまでこの調子が続くのかと気になる道です。まさに念仏坂です。きつい登りでした。

坂を登り詰めると平坦な道になります。周囲に何もない道です。下枝の無い樹木の森が続きます。ササは無し。草は、ハンゴンソウ・バイケイソウなど、鹿の食べないもののみです。鹿の口が届く範囲の葉や枝は食べられ、下草も食べられ、寂しい殺風景な景色が続きます。何もかもエゾシカの為せることです。「憎っくき鹿め！」です。

フットパスの構想もあると聞きました。眼下に見る冬島海岸美し、森をわたる風さわやか、歴史のロマンを伝える話は人の心を引きつけます。しかし、路傍を飾る野の花無しは困ったことと思いました。まさに「憎っき鹿め！」、であります。

やがて道は急な下りになります。渓谷を下り、さらに登るのです。この様な繰り返しが5回ほど。7キロ、4時間の行程が理解できます。結構厳しい道です。この道が、かっての生活道路。先人の苦労が理解できました。

中間の3，5キロ地点に、『様似山道の古跡　原田旅宿跡』ありました。こんな山奥に、物資の運搬も大変だったであろうなどと思いながら通過しました。まさに、歴史の移ろいを感じる地点でありました。『原田旅宿跡』の説明板には、次のように記されていました。『1973年（明治6年）浦河開拓使出張所は山道が非常に危険なので、これを護る人を探しており、静内に居住していた旧淡路稲田藩士の原田安太郎夫妻が応じて、4軒に7間の家を建て宿泊させた。相談になったりして12年間、人々の安全を護ってきたもので、ときとして兇悪犯を捕えたこともあったという…点在する石は建家の土台に用いたものである。』

雨が心配でとばして3時間半で踏破。高齢者には厳しい道でしたが、いにしえに思いをはせるのも楽しかった。一度は訪れることをお勧めします。

オホーツク支部　秋季研修会に参加して（H22年9月）

札幌市　　阿部　忠

9月4．5日とオホーツク支部主催の秋季研修会に参加しました、同乗者と7時半に我が家を出発、暇な二人なので札幌からは一般道、岩見沢から無料高速道路を利用して快適な走行で午後3時前には集合場所につきました。

高速無料化のおかげで今まで高速道路に縁が無かったのですがこの頃はずいぶん有効に利用させてもらっています、おかげで北海道も狭くなった感じがします、出来れば道南も早く無料にならないかな！は虫が良すぎるか？

着いてさっそく東京農業大学客員教授　農学博士の境　博成氏を講師に迎えての座学があり『野生リンゴから酒を造る話』『アッケシソウの話』でしたがアッケシソウについては昔網走観光の時に赤く色づいたものを見た記憶はあるのですがそのルーツという話には興味を引かれました。

アカザ科のアッケシソウはサンゴソウとも言うのですが海水3分の1、淡水3分の2の条件の時1番育ちが良いと言うことなので、どこでも生えるものではないのです、そのルーツはと言うとモンゴルではないかと言う。

「まさかモンゴルには海は無いでしょう」と思ったら昔海だった所が隆起して岩塩があるという、なるほどそれがモンゴルの塩湖に群落が確認されていてそれが流れ着いたというのだ。

1年草のサンゴソウは毎年種を撒くが博士はその種がアムール川を流れそれが北海道にあるサンゴソウのルーツではとの仮説を立てサハリンに調査に出掛け北端に近い所で現地の人は「見たことが無い」というのを執念で群落を発見してその証拠写真も見せてくれた。

残念ながらサハリンの南端では発見出来なかったということである。

それらが北海道に渡ってアッケシソウになるわけだが1番早く発見されたので名前はアッケシソウだが厚岸では群落はあまり無くほそぼそと分散して自生しているようだ。

位置関係から言うとサハリンにより近い紋別のコムケ湖、それから能取湖、厚岸湖である。

そこで疑問点として「何でオホーツク海側ばかりで日本海側に無いんだ」と鋭く考える人もいると思いますがそれはサハリンと大陸との間の間宮海峡の流れが北向きになっているので日本海側には流れ着かないということでナットクしてもらいましたか！

その他野生リンゴの話、サイダーとラムネの話と興味の尽きない座学でした。

境さん興味深いお話大変ありがとうございました。
その後オホーツク支部の皆さんの心温まる歓待とご馳走と山や草花のスライドと盛りだくさん腹一杯でした。
翌日の天気は薄曇りですごし易く天都山の傾斜地にボランティアで植えられている花の見学、『呼人探鳥遊歩道』では湿地・木道を歩きながらの観察会です、スズメバチ用捕獲器の入り口の開け方はどれが正しいか？このがまの穂でたいまつになるか？これはミクリ？これはフトイ？ホソイも有る？て言う感じでみんなガヤガヤ。
その後能取岬の観光、林野庁の「森の巨人たち百選」に選ばれた、美岬のヤチダモの見学です。
これは高さ37m、幹周り4．6m、樹齢は推定300～400年。堂々とした姿はテレビコマーシャルなどにも映し出されているそうです。
最後に能取湖の『アッケシソウ』の見学です、能取湖卯原内園地のアッケシソウはまだ真っ赤になるには時期が早いにもかかわらず群生はすごい、これは人の手を加え保護しているということでした、観光地を護るため努力をしているということです。
芹　洋子さんの清らかな声で「サンゴ草紅く咲くころ」という歌が
「北国の夏は短く、青春の旅の出逢いはさらにはかない、別れても　別れても愛を信じいつかまた逢いましょう、能取湖にサンゴ草紅く咲くころ」と流れていました。
ウーン若い頃旅に出ても出逢いなんて無かったなー、まあいいか！
なんでも食べてみたい人がどこの会でもいるものですが、サンゴ草を食べてみて「しょっぱい」と言っていたので私も噛んでみたのですが量が少ないのとガムをかんでいたのでしょっぱい味はしませんでしたが何か青臭い味がしました。
ちょうどこの頃パラパラと雨がふりだしオホーツク支部の方とはお別れとなりましたが、盛りだくさんの行事で大変だったと思います、皆様にはいつも笑顔で迎えて頂き感謝しております、本当にありがとうございました。
こんな楽しい研修会なのに参加者がチョット少ないのが寂しいな、新しく入会した方ぜひとも一度参加してください。

軍事道路自然観察会に参加して

２０１０年6月１３日
小樽市　太田淳子

晴天にも恵まれて、絶好の登山日和です。
今日は夫婦で参加させて頂きました。ボランテイア　レンジャーの方々を含めた４３名の参加者は、班に分かれ、いざ軍事道路へ。

朝里の石切山を出発し、ゆっくり歩きながら、野草の説明に耳を傾けます。今の季節に開花しているクルマバソウ、クルマムグラ、オククルマムグラなど、同じ様に見えても、葉の枚数、花の形、花びらの向き、違いなど、それぞれ特徴があること…教えて頂きました。

参加者の中に、本を片手にメモをとったり、熱心な方もいました。
又、藻岩山で発見されその名がついたと言う希少種、「藻岩蘭」も見ることが出来、なぜ、ここに……と想像しながら２時間程歩いた所で昼食、休憩をとり、さらに歩くと「〒」マークが入ったコンクリートの建物。

札樽間に初めて電話ケーブルが開通したのは昭和５年、当時、小樽は商業都市として発展途上にあり、交通、通信面でインフラ整備が急がれておりました。

軍事道路（明治 38 年開通）用地を利用して作られたこの通信施設もその１つ、以来、80 年余が経過し、今も尚当時の姿を残しています。お話によると、ケーブルの送電能力は、年々減衰が避け難く、それを良くするための装置（装荷という）が必要となり、その装置を収納する為の建物だったのです。

当時は道路幅も広く、車が行き来できたそうですが、今は野草が生い茂り、人が通れるだけの道幅です。

その生い茂る植物の中に、当時の木の電柱が何本か残っている光景は、感慨深いものがありました。

この度は、個人ではなかなか行けない、貴重な場所に案内して頂き、たいへん勉強させていただきました。

雷電山登山観察会に参加して　２０１０・７・３

[redacted]　　A子・女・６２

明日は、私の好きな登山ルートの一つ、朝日温泉コースを登る。それも観察会、草・花・木・地形等を親切丁寧に教えて下さる。

３：４５分、目覚まし時計が鳴る。

５：００、小樽駅前を参加者１９人が４台の車に分乗した。ガスがかかる中、稲穂峠を越えニセコ連峰最西端の雷電山登山口である朝日温泉に向かった。昨夜の雨で滑るヘアピンコース、運転お疲れ様。

７：１０分、ひなびた温泉・露天風呂・川のせせらぎ・心がゆったりする空間の中登山開始、丸木橋を渡る。登山道は草が刈られ、足元はほど良いクッションだ。赤エゾマツの木肌が美しい、ゆっくり高度を上げ草・花を観察、サンカヨウが大きな薄紫の実をつけ自己主張している。２～３０分歩くと、汗が額からひたたり落ちメガネが曇る、この時期にしては気温が高く、風を感じない。テング岩・中山を過ぎるころ右下方面にコックリ湖が眺められる、見上げると幾つものアップダウンの急な尾根道、その向こうにガスに見え隠れして台地状に前雷電・雷電山のピークが姿を見せた。スロースロー歩行、それでもザックの肩から汗の臭いがする。水・スポーツドリンクで一息、時々上着をパタパタさせ腹に風を入れる、服も少し乾く。ハイマツの廊下で足を取られる、手で掴んだ枝の脇からミネゾウ・アカモノ・シラタマの木が頑張れと励ましてくれる。

１２：００、前雷電到着。平坦だが再び背の高いハイマツの廊下を進む。

１３：００、エゾカンゾウに迎えられ、一等三角点のある雷電山（１２１１ｍ）山頂に着いた。前方に目国内岳、縦走路が見えた。ゆつくり昼食。
山頂から５分ほどの南斜面には、チングルマ・キンバイ・オトギリ・アズマギク・シオガマなど色とりどりの花が咲きみだれ、シャッターを押す。疲れは一瞬飛んだ。

１３：３５分、下山開始。今日の自然環境は厳しく、足を止めると汗の臭いを求めて虫が群がる。雷電海岸に続く長い尾根道を、ゆっくり、ゆっくり下る。時折遠くで雷の音が聞こえた。もう観察より露天風呂・ビールが頭を過る、お互い励ましあい一歩・一歩足を進めた

１７：３０分、やっと登山口に着いた。
暑と長丁場の為、体調を崩し下山した人・体調を崩し最後まで自力で頑張った人・途中で靴底が剥がれた人に、仲間の皆さんが、積極的に協力して助け合い全員無事下山することができました。良かった！

露天風呂に一番乗り、思ったこと。登山と言う観察会に参加する時は、今一度装備・山について下調べ等再確認をすること。夏尾根歩きは熱中症を意識して、水を多く持ち塩も少し持参。企画したボランテアレンジャーの皆様本当にお疲れ様でした。

《江別市の教職員の皆さんを案内して》

やや緊張しながらも楽しく学びあう

広　報　部

夏期研修会に参加された江別市の教職員の皆さんを、7月30日（金）に野幌森林公園をガイドしたので、簡単に報告したい。主催者である江別市教育委員会の事務局次長の小川さんの司会のもと、副会長の佐藤が自分たちの組織の活動状況にふれられて、顧問の田村さんから環境省が進める生物多様性に関する「いきものみつけ手帖」に関して、つづいて宮本健市さんから「スズメバチ」に注意しその対応について話された。

早速、先生方も１０班に分かれてもらい、案内役の私たち１６人も分かれて観察会に入る。それにしても先生方は若々しく、年齢差を感じながらのスタートであった。

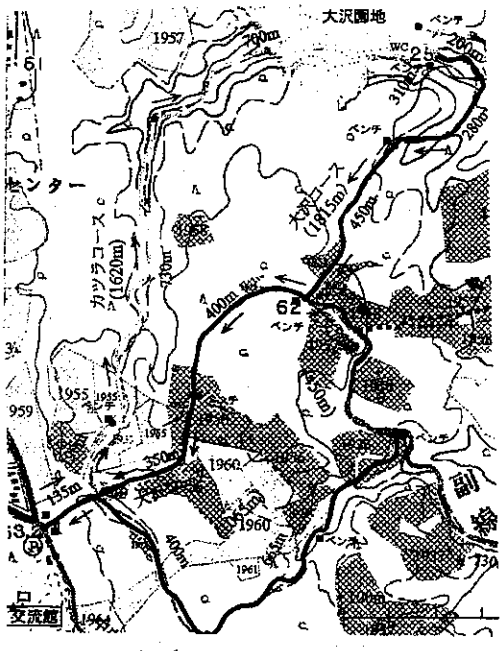
コースは、カツラコース➔大沢園地➔大沢コース　　（約４ｋｍ）

私たちのグループは、植物に詳しい熊野さんがていねいにわかりやすく説明していた。植物が生活する仕組みや様子なども僅かであったが話し合って楽しく学びあった。他のグループでも、それぞれの解説者がオリジナルな視点から説明され、話しあわれ相互に理解を深めたことと思われる。

実は、その前日29日（木）、このコースを下見して、何か統一したテーマのもとに解説しようか、と検討した。でも、いつも市民の皆さんに対して案内しているように、自分なりの視点からガイドしようと話し合っていました。

出発した大沢口に戻ってきたところで、仲間の吉田さんがおもしろい紙芝居「バッターの足」をされていた――今日の観察会で見ることができない場合を想定して制作―　。バッターは強い筋力に支えられて瞬時に飛ぶことができるし、更に外骨格に支えられて心臓、消化管があることなどを語っていた。吉田さんはいつも模型や図説などを作りうまく説明されている。

全体的には、コースもやや長く約４ｋｍにわたり、時間も少なかったりして相互に学び深めあうにはもう一歩であったように思われる。教職員のなかには、自然と人間とのかかわりや、動植物に詳しい専門的な知見をもっている人も多いと思う。私たちは素人集団で、観察を重ねながらも狭い知識しか持っていないので、今後、機会があれば皆さんと相互に学びあい深めあっていきたい。



観察したコース

最後になってしまったが、私たちをこの研修会に推薦してくれた江別市教育委員会の皆さんにお礼を申しのべたい。（S）

子供達を案内して　　江別市 土屋忠司

9月10日(金)に、江別市立対雁小学校4年生による総合学習の一環として、野幌森林公園で観察会が行われました。学校からの協力要請で、ボラレン13名がA班、B班に分かれて協力しました。

当日、ふれあい交流館で打ち合わせ後、大沢口に向かうと児童112名が、1グループ6～10人ほどで、12グループに分かれ集合していました。全児童から「よろしくお願いします」との挨拶があり、ボラレンの春日会長からは、歓迎の挨拶、室野事務局長から、スズメバチの対処方法とツタウルシに注意するように説明がありました。

A班は1グループ～6グループ、B班は7グループ～12グループに分かれてボラレン1名が1グループを担当しました。今回の観察会では、昭和のカツラ見学とふれあい交流館の見学は、混雑を避けるため時間をずらして見学し、A班は記念塔連絡線を、B班は大沢コースの観察です。

私は、B班、9グループ(男子、女子で構成)の担当となり大沢コースの案内です。園路沿いには、ミゾソバ、ゲンノショウコ、キツリフネ等は咲いていましたが,キンミズヒキ、ヤブハギ、オオウバユリ、マムシグサは盛りを過ぎ果実になっていました。クマイザサの葉に、エゾマイマイ、サッポロマイマイ、エゾナミザトウムシ等が多く見られました。

私が、いつもの観察会と同じように、樹木、草本、昆虫等の名前，特徴、別名を説明すると、静かに聞く女子、しゃがんで虫を見る男子、A4判の用紙を使いメモする男子等、様ざまです。又、目敏く、ミカドバッタやシャクトリムシを見つけた子もいました。

大沢コースの観察は、時間制限もあり約600mを折り返して約1時間で終えて次は昭和のカツラの見学です。北海道名木百選でもある大きなカツラで、葉は良い香りがし、アイヌの人達は丸木舟を造るのに利用した事を説明しました。これで屋外の観察と見学は終わりましたが,児童が飽きもせず、疲れていない様子からして，丁度良い距離と時間配分だと思いました。

交流館は、満員状態で、館の職員さんも説明に忙しそうです。顕微鏡でチョウを観察する子、双眼鏡で小鳥を探す子、図鑑を見ている子、皆,それぞれに楽しんでいました。

観察会が終わり児童と別れの時、肩をたたき、握手をし、手を振って、「元気でまた会おう」「さようなら」と交わした挨拶は、今迄の観察会にない気持ちの良いものでした。

子供は、体験の積み重ねがあっつてこそ、自然の中で自発的に遊ぶことができると言われています。児童には、これからも野幌森林公園に来て、自然を楽しんでほしいと思います。

《 対雁小 4年生のみなさんから 》

心あたたまるメッセージをいただく

広報部

9月10日（金）、江別市の対雁小学校の皆さん（112名）と、野幌森林公園で自然について学びあいました。そのときの感謝のステキナ感想文をいただきました。

カタツムリ、エゾサンショウウオなどの動物から木々の葉、カツラの大木などとてもよく見て、調べていることがわかりました。うれしく思います。

私たちの集まりが10月初めにあって、その時、説明してくれた仲間たちに見せたところ、みんなとても喜んでいました。

この公園で自然を学びあったときもそうでしたが、礼儀も正しく賢い生徒のみなさであることがよくわかりました。

そこで、みなさんから寄せられた感謝のメッセージを一部（申し訳ないのですが、紙面の関係もあって）を載せます。

・トガリネズミを見ることができてよかったです。トガリネズミのことを知ってきょうみがわいたのでこれから調べていきたいです。本当にありがとうございました。

（江川 優梨亜）（えがわ ゆりあ）

○人間のたい温はたい温のないエゾサンショウウオなどにとってはすごくあついということがわかりました森のいろいろなことをおしえてくださってありがとうございました。

（りょうた）

○くっつきむしをつけられて、びっくりして、たべれるは。はなどがあって、いろんなしょくぶつをおしえてくれて、うれしかったし、うれあいこうりゅう館では、鳥の鳴き声を聞いたりして、楽しかったです。ありがとうございました（ゆきにゃみ）

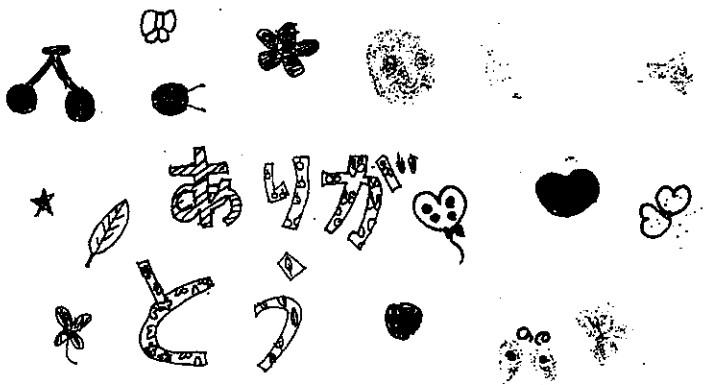
ホウウバユリの中にたねがはいっていて秋にたくさんたねがはじいていくことがすごいと思った(500こぐらい入っている) いまはがくになっている。とんだたねはじめんにあたってそだっていくことがわかりました。ありがとうございました。

佐川 亮太

わたしが1番わかった事は、森にはいろいろな種類の植物があることです。思ったことは、今、森がなくなっているのに大きな森があってすごいということです。感じたことは車がたくさんある、道路よりも、森の中の方が静かでいい所だと思いました。知ったことは、みんながふつうによんでいる植物のよび方ではないよびかたもあることです。森をあんないしてくれてありがとうございました(堀井陽依)

わたしが1番わかった事は、

あしながクモは、実は、えぞなみざとうおしと言うことです。思った事は、森には自然がたくさんある事です。感じたことは、いろいろにているけどそれぞれ名前がある事です。とてもキレイでした。知った事は、しめったところがだめなおしとかが中にはいるんだなと言う事です。とてもとてもやさしくおしえてくれてどうもありがとうございました。わたしは、森が大すきです(河元黄花)



『野外観察会を終えて』

江陽中学校１年Ａ組　竹澤　太貴

十月十四日の野外観察会「秋の森の匂いをかごう」を終えてぼくは、いろいろなことを学びました。

ぼくらの住んでいる近くにあんなにすごい森があると知って、とっても驚きました。たくさんの植物が生えていて、ぼくの知らない木が生えていて、とてもいい経験になりました。日本はすごいんだなと、とても感動しました。たとえば、ミズナラという木は、日本を代表する木だそうです。さらにぼくが知っている団栗は、いろいろな種類があり、先の方から芽を出します。不思議でおもしろい植物や木などをボランティアレンジャーさんは、教えてくれました。野外観察会に行くまでは、「あまりおもしろくなさそうだな」と正直思っていましたが、実際に行ってみるとすごく楽しくてまたやりたいと思いました。

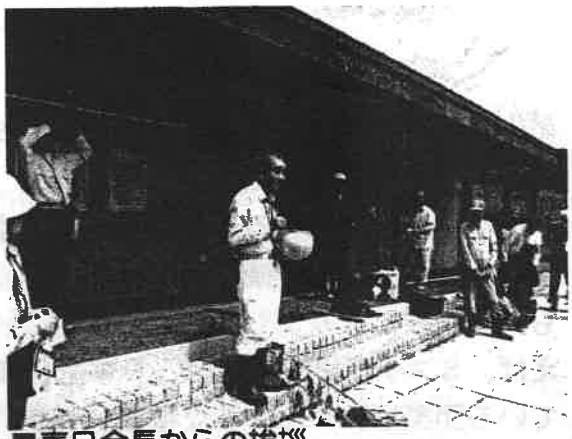
その中でも特に不思議だと思った植物を紹介します。一つ目はオヒョウです。その形は、魚のカレイに似ています。アイヌの人々が大切に使っていたらしいです。二つ目はアオダモです。アオダモは、五枚でひとつの葉です。アオダモを使って野球のバットを作れます。そのほかにも、顔より大きい葉のホオノ木や、タンポポに似ているタンポポもどきや、雪の多いところにしかないチシマザサなど、いろいろな植物がありました。

ぼくは、この野外観察会「秋の森の匂いをかごう」を終えて、植物や木の種類、さらには自然のすごさを学びました。ボランティアレンジャーの人々には感謝の気持ちでいっぱいです。今回お世話になったボランティアレンジャーの春日さんは、とても熱心でわかりやすい説明で、おもしろかったです。また、このような機会があったらぜひ参加したいです。

オオハンゴウソウ防除作業Photoレポート

札幌市　安倍　隆

■7月25日（日）晴天
■一般参加者は15名



■春日会長からの挨拶
■やる気満々のヘルメット姿です

■石狩地域森林環境保全ふれあいセンターからは4名ご参加いただきました
■志鎌所長からの挨拶

■北海道開拓記念館から１名参加
■ボラレン会員は１７名参加
■総勢３７名です

■室野事務局長からの防除方法の説明
■オオハンゴンソウを手に、説明に熱が入ります

■宮本さんからスズメバチに関する注意事項の説明
■写真や標本で恐ろしさを伝えます

■いよいよ防除作業スタート
■中央線の約600mが今年の作業です

■みんな黙々と作業を進めます

■「ぬ、抜けない、、、」

■抜き取られたオオハンゴンソウが山と積まれます

■春日会長の秘密兵器「押し切り」登場！
■根と花芽の部分を切り取ります

■ふれあいセンターのトラックが往復して
抜き取ったオオハンゴンソウを運びます

■切り取った根と花芽は焼却します

■約２時間で計画通りに作業完了
■皆さまお疲れ様でした

ボラレン作品展

≪自然に魅せられて≫

会員の皆様が趣味やライフワークとしている技を展示交流したり、その作品を一般の方々にも見てもらう作品展開催に向け準備を進めてきました。多くの人々に足をはこんでもらう会場の確保も幸運にもＮＨＫギャラリー（ＮＨＫ札幌放送局内）に決めることができました。

期日も９月１７日（金）から２２日（水）とし、会報誌エゾマツ９３号で作品募集の案内を送付したのはご存じの通りです。

作品が集まってくるか不安の面がありましたが、その不安は無用でした。最終的に写真３６点、絵画２点、工芸１２点、手芸１点と出展会員の力作がそろいました。

交通の便もよく、多くの人々が出入りする会場のこともあって、会員はもとより一般の来場者も多く、予想していた以上の来場者に出展作品を鑑賞していただき、多くの成果を上げたボラレン展になりました。

平成１８年にボラレン２０周年事業として「とっておきの１枚写真展」を野幌森林公園ふれあい交流館で行いましたが、会場が小規模で多くの会員の出展が無理の状況でした。今回は納得のいく会場で多くの作品が集まり、ボラレン展が成功裏に終了することができました。会場設営、当番、搬出等も多くの人たちの協力もあり期間中スムーズな運営ができました。ここに改めて会員の皆様に感謝いたすとともに、ボラレン展の成果が引き継がれることを願っています。

ボラレン展実行委員会

熊野　美子　　内山　恭子　　田村　允郁

野幌森林公園特定外来植物の防除作業

川　原　一　成

ビオトープとはドイツで生まれた概念で、自然環境の中で生息する生物群集によって生態系が構成されていることで、遥か昔から人や鳥獣・草木も自然の連鎖をもちながら数万年の歳月を経ながら現在の自然を形成しています。その自然環境を人間が知らず知らずに壊している現実を知り自然保護運動が発足しています。

8月30日読売新聞に「円山の原生植物を守る」の見出しで“外来種オオハンゴンソウ駆除”と報道されています。急激な環境変化や乱獲によって絶滅に瀕する動物や植物があります。野幌森林公園もここ数年の間にオオハンゴンソウが増え続けて公園の多くの固有種や希少種を含む生態系に悪影響を与えようとしています。オオハンゴンソウは外来生物法によって指定され被害の拡大を防ぐ目的で駆除が推進されています。この植物は北米原産で明治の中頃に鑑賞用として輸入されました。オオハンゴンソウは①花期は7～8月に黄色の花（直径１０cm位）を咲かせます。②キク科の多年草で根に養分を蓄え成長します。この時期に刈り取ると開花しません。③刈り取りによって根が肥大化します。引き抜いた根の破片は再生します。④種子は土中で数年間休眠状態になり発芽することも解ってきました。

防除作業は今年で２回目になり、北海道ボランティア・レンジャー協会の主催により７月２５日に行われました。参加した４０名の方々が２時間半の作業で約一万本抜き取り茎は堆肥にし、根は焼却処分にします。

オオハンゴンソウの防除作業は地味で困難を伴いますが、人々の生活と結びついた野幌森林公園に原生する動植物の生育を促し、この地が子子孫孫まで継承されることを願わずには居られません。

野幌森林公園におけるオオハンゴンソウ駆除活動

活動日：2010年7月25日

はじめに、特定外来生物であるオオハンゴンソウ（*Rudbeckia laciniata* L.）は、原産地の北米から園芸用として明治中期に導入され、のちに逸脱して野外に広がったキク科の多年生草本です。本種は、現在では本州中部以北を中心に分布を広げており、在来植物との競合が懸念されています。そのため、北海道や神奈川県など全国11都道府県で駆除活動が実施されています。

私は大学でオオハンゴンソウの研究を行っており、研究対象地である西興部村においてオオハンゴンソウの駆除活動も始めました。しかし手探りの活動であり、きちんとした駆除数等の把握をすることができませんでした。そのため今回の駆除活動は、駆除活動のやり方等を勉強させて頂こうと参加させていただきました。

駆除活動は、オオハンゴンソウの地下茎ごと抜き取る作業をする人と抜き取られたオオハンゴンソウの地下茎を切り取る人とに分かれ行いました。抜き取る作業の方が大変という印象を受けましたが、実際作業を行ってみると地下茎を切り取る作業の方が大変だということが作業を見ていて印象に残りました。作業効率は、2チームに分かれ予定していた駆除範囲を時間内に行い、事前の打ち合わせ・作業等がしっかりされていることが分かり、見習うべき点あると感じました。そのため、2時間という駆除作業はあっという間に過ぎ推定1万株を駆除する成果があることに驚きました。しかし、参加者に若い方がほとんどいなかったのが気になる点であり、若い人への関心を高めさせ活動に参加させていくことが必要だと思いました。とある駆除活動を行っている地域では、駆除後にオオハンゴンソウの葉の天ぷらを食べる試みを行い、参加者を集めているそうです。

今後の野幌森林公園のオオハンゴンソウについては、駆除活動において地下茎を完全に除去することが難しく、地下茎を残ってしまう株が多々見られ、駆除活動は数年続くことを覚悟しなければいけないと感じています。たとえ、地下茎を完全に除去できたとしても次に埋土種子個体が見られるようになります。埋土種子を今後増やさないためには、種子が形成される9月中、下旬において花序の摘み取り作業の実施も必要になってきます。このように、オオハンゴンソウの根絶には大変な労力と時間がかかるのがわかります。栃木県の日光では30年以上駆除活動を行っても根絶が出来ていない事例もあります。人が勝つかオオハンゴンソウが勝つか、人が勝つためには手遅れになる前に今できることを行うことが必要になり、あきらめないことが大切であると思います。

最新のオオハンゴンソウの研究によると、5月または7月に駆除活動を行う方が9月に行うよりも、駆除後の在来植物の増加率が高くなるという結果があり、抜き取りを行う時期は季節的に早期の方が効果があるなどわかっているそうです。

酪農学園大学 大学院　酪農学研究科 酪農学専攻
野生動物保護管理学研究室
青木　克将

平成22年度　ボランティア・レンジャー育成研修会について

北海道立野幌森林公園　自然ふれあい交流館
副館長(普及啓発員)　松井 則彰

指定管理者となって4年目、私ども自然ふれあい交流館が実施したボランティア・レンジャー育成研修会は、10月1日から3日の期間、自然ふれあい交流館及び野幌森林公園で開催しました。

参加者は22名（申込は30名ありましたが･･･)。初心者の方から他団体で活動されている方、行政の方など参加された方は様々でしたが、グループワークにより参加者同士の交流も図られたようで、和気あいあいとした雰囲気の中、3日間という長いようで短く感じた日程の中、救命講習、アウトドアゲーム、野外実習、プログラムの作成と解説方法などのプログラムを、無事最後まで参加者全員に受けていただきました。

また、2日目・3日目のグループワークでは各班についていただいたボラ・レンの方々からのアドバイス、助言等により個性でユーモアあるプログラムが完成し、発表についても笑いや感嘆する内容などもあり素晴らしいものばかりでした。当研修会の詳細な内容については、割愛させていただきますが、参加者にとっては、講師役でもあるボラ・レンさんが身近にいてアドバイスしてくれることが、この研修会で何よりもの収穫といいますか刺激になったのではと思います。

さて話は変わりますが、参加者は、全道各地からの応募となりました。参加された方や、問い合わせから、野幌だけではなく道内各地で開催しないのかとする意見があります。確かに指定管理者として私どもが実施する前までは、北海道が主催し各地で実施してきた経緯があります。当研修会の趣旨（道内各地で開催される自然観察会等において、道民と北海道の自然との橋渡し役をする「ボランティア・レンジャー」を育成し、自然環境の保全に係るボランティア活動の推進を図る）からみても、道内各地で研修会を開催し、それに伴いレンジャーさんたちが各地・方面で活躍されることが良いことだと思います。

このことについては私どもも道内各地で実施するべきと思っておりますが、指定管理者制度という枠内で考えると今時点では難しい状況です。しかしながら当館の設置者である北海道に対し、これら要望や研修会の現状をお伝えするとともに当研修会に対する考えをお聞きし、よりよい研修会になるよう今度の課題として機会がありましたら協議をしてまいりたいと思います。

最後になりましたが、当研修会では共催として数ヶ月前からの準備段階から多大なるご支援・ご協力をいただきました北海道ボランティア・レンジャー協議会の皆様方に感謝申し上げますとともに、今後とも当館の事業運営にご協力いただきますよう、お願い申しあげます。

平成２２年度ボランティア・レンジャー育成研修会

研修部　菅美紀子

今年度も北海道立野幌森林公園自然ふれあい交流館主催、北海道ボランティア・レンジャー協議会共催で１０月１日（金）２日（土）３日（日）の日程で育成研修会が開催されました。

１日目は午前１０時より自然ふれあい交流館の氏家館長、ボラレン佐藤副会長の挨拶から始まりました。２２名の参加者でした。ふれあい交流館の松井さんから３日間の研修についてオリエンテーションがありいよいよ研修の始まりです。

野外実習（アウトドアゲーム）は交流館の担当で交流館周辺のベンチや草原で時々大笑いしながらも真剣に取り組んでしました。Oh！Deer という、うさぎとりゲームは私も受け、確かうさぎではなく鹿でしたが。自然界はけっこうしたたかかもと思った記憶があります。自然についての俳句つくりもして午前は終了。

午後は江別消防署の救急法の講習でした。その間、ボラレンは明日午前の自然観察会の下見を行いました。天気も良く班ごとに桂コース、大沢コース、エゾユズリハコースを見て回りました。

１６時１０分からは「自然について」の講義です。～外来種を通してみた野幌森林公園の自然・北海道の自然について～　ボラレンの五十嵐さんが講師を務めました。外来種は樹木、植物、動物、水生生物と多岐にわたり数の多さに驚きました。また日本に入ってきた経緯もいろいろで難しいものだと改めて考えさせられました。うれしい驚きは戦後すぐの野幌の森の航空写真と現在の写真を比べると現在のほうが緑の部分が多くなっていたことです。様似山道の鹿の食害についても報告がありました。

２日目は１０時１０分から１１時３０分まで野外実習、自然観察会をボラレンが担当しました。４人と５人の５グループに分かれてそれぞれの班に２名のボラレンが当たり、日頃の活動の一端を体験してもらいました。私達が担当したグループは質問や会話がはずみ時間があっという間にたちました。１１時４０分からは　～プログラム作成と解説法（導入）～　ボラレンの小林さんの講義です。赤いＴシャツで楽しい自己紹介から始まりました。プログラム作成にあたり、まず大きなテーマを考える、次に観察会のネタをつくることや、解説方法について実例を出しながらの解りやすい講義でした。

午後も１３時から講義　～自然ガイドで何を伝えるか～　自然ウォッチングセンターの島田英明氏が講師でした。まずは興味を持ってもらい好きになる、楽しい、そうすると知識も深まり、認識も高まると保全活動や賢い利用につながるのでは。また相手が何を求めているかで案内する。ワクワクや美しい、遊ぶ、癒しなど五感も使うことなど。また種子の運ばれ方についてもいろいろな小道具を用意され楽しい講義をされました。

１４時４０分からは実習　～プログラム作成と解説方法～　野外に出てボレレンの１０分間模擬解説です。交流館南側の草原で小林さんがふみ草植物、そで植物、マント植物について。木道で成田さんがサルオガセやウメノキゴケなど地衣類と樹木の共生を。吉田さんが手作り紙芝居でキノコの働きを。道場さんが野鳥と野鳥が食べる実を写真で楽しく解説。交流館テラスで五十嵐さんが水について、私達の使える水が以外に少なく貴重と話されました。どの解説もいろいろな工夫があり、また話し方も楽しくとても勉強になりました。

その後参加者は研修室にもどり、それぞれのグループごとボラレンのアドバイスでテーマ探し、どの班もけんけんごうごう真剣に取り組んでいる様子がうかがえました。

１７時５０分からナイトウォッチング。もうこの季節真っ暗です。聞くところによると交流館の屋根にフクロウが現れたとか。見た方もいたのでしょうか。

３日目はもう始まる前から自主的に取り組んでいました。資料は昨日の夜インターネットから取り出しておくなど、材料探し、発表場所も早く来て点検とその熱心さに感心してしまいました。午前中にワークシートを完成ということもあり、現場に足を運んだりプログラム発表の担当を決めたり、時間どおりに納まるかなど昼食中も取り組んでいました。

いよいよ１２時３０分から野外で　～フィールド発表～　タイトルは発表順にＣ班「冬じたくの知恵」　Ｄ班「つる性植物の違い」　Ｅ班「木と人」　Ｂ班「まむし草のヒミツ」Ａ班「種の旅立ち！！」のタイトルで発表が行われました。どの班も全員が分担で解説、もたもたすることもなくスムーズ、時間もぴったり、イラストや写真の説明はもとより、実物も解説者と手助けする者の分担が手際よくボラレンも顔負けです。テーマもなぜかみんな違い自然に対する興味や視点もそれぞれと思いました。ボラレンの講評もほめ言葉が多かったように思います。

１５時からのふりかえりはみんな満足げでそれぞれの思いなどをグループごと和気あいあい話し合っていました。それまではプログラム作成に夢中で自分のことを話す暇もなかったようでした。

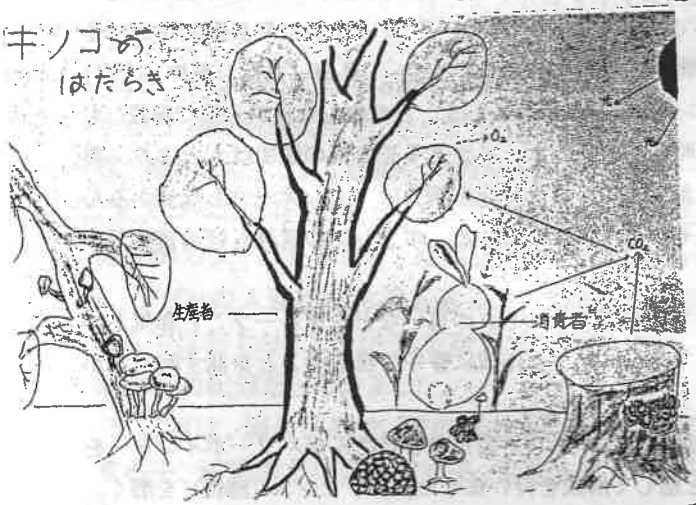
１５時３０分から　～まとめ・講義～　ボラレン会長の春日さんがパワーポインターを使って「いい案内人になりたい」と題して解説を行いました。まずセンス（感性）を磨く、いい心構え、いい内容、いい説明などについて解りやすく話されました。写真でボラレンの活動の紹介もありました。

１６時からは閉校式。２２名に修了書授与があり３日間の研修を終了しました。参加された方々ほんとうにお疲れさまでした。ふれあい交流館の皆様も無事にすみほっとしたことと思います。たいへんお世話になりありがとうございました。

最後にもうひとつ、総務部の三崎さんのボラレン加入のお誘いで１１名の新入会員が加わりました。

＜10月２日　育成研修会で＞

吉田さんが紙芝居を制作して「自然の循環」をわかりやすく説明する



２日目、１４時４０分からの実習「プログラム作成と解説方法」で仲間の成田、吉田、道場、五十嵐そして小林さんが、それぞれの専門性をいかしながら、５班の皆さんに１０分単位で説明され、好評でした。

２２年度　新入会員

先日、１０月１日ー３日、行われた「育成研修会」で１１名の方々がボラ・レンに加入されました。とてもうれしいことです。

加入された皆さんと協力して一層多彩で充実した活動をしていきたい。

大藤 幹（札幌市）　伊藤　清治（札幌市）　辻本　理佳（札幌市）
塚本美津子（札幌市）　藤巻　光彩（札幌市）　大槻　宏明（札幌市）
渡辺　文高（札幌市）　国吉　守（札幌市）　矢村勢津雄（札幌市）
秋田　実（余市町）　新谷　幸嗣（苫小牧市）

心洗われる思い　（ボランテイア・レンジャー育成研修会）

滅び行く自然界（北の大地）の営みを大切に守り抜く有識者ボラレンの熱意溢れる講師陣と若い自由闊達な自然ふれあい交流館のスタッフ陣の底力に支えられ、野幌の森林が育み育てられていることを実感し感嘆の思いです。

野幌森林公園の近接地に住みながら交流館の存在すら知らず、自分の健康づくりのため遊歩道を散策するだけの自分を恥じて心洗われる思いでした。
受講中ただただ「なるほど」「あゝ、そうだったのか」などと感心・感動・感激・・・連続のあっと云う間の３日間でした。（　１０月１・２・３日２２名受講　）

古稀を迎える私にとって働き詰めの年月でじっくり木・花・鳥・虫など愛でる余裕の時間も無く感心も無く、まして観察・観賞するゆとりある空間がなく、いたずらに時機が通り過ぎたのが実情です。

静かに振り返って思うとあのヤンチャ盛りの小学校の時の担任堀憲三先生（後に各学校の校長を経て北方自然教育園に居られたとか）に連れられて円山周辺の野山を駆け巡り、野冊を持つて植物採取する方が勉強するよりはるかに楽しかったことが蘇って来ます。

今、遊び心で童心に戻り興味深く講義を聴くよりも（学術的・研究的・専門的知識）野外実習に出て特に鈍くなった五感体験（見る・触る・聞く・嗅ぐ・味わう）を張り巡らしながら感性を磨き、体感を通じ懐の深い自然から学び、生きる為の自然の摂理・命の尊さ・子孫の継承などの神秘さ・素晴らしさ・美しさ等々更に自然ウオッチングセンターの島田代表の「自然は孫からの預かり者」と云う言葉が妙に心に残り感銘を受け、ボラレンの講師陣と受講生の共有する温もりあるふれあいに気づき感慨無量でした。

春日会長曰く「いい顔・いい声・いい動き」は小学校のようなスローガンが素朴で純粋な気構え・心構えの素地がいい案内人として少しづつ培われてきたような思いにさせられました。

また、受講生の仲間から学ぶ事も多く、知識欲の豊富さには驚天動地、これからは少しづつ知識を蓄え、実践のフイールド発表に向けて自然解説員として努めたいと思っているところです。　　私達の今回の実践例として

- グループＢ班　國吉・野月・大塚・塚本（魔女）・坂の五人衆
- キーワード　マムシ草・性転換・まだら模様・種子散布
- ねらい　マムシ草の不思議について知ってもらう
- 活動内容　①散策道脇の草の踏みつけられていることについて
  ②マムシ草を観察しながら名前の由来について
  ③種子散布について　（　２方法・芋　）
  ④性転換と受粉の方法について
  （　雄株から雌株・ハエによる受粉　）

札幌市　　国吉　守

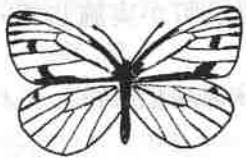
ボランティアレンジャー育成研修会に参加して

余市町　　秋田　実

１０月６日午前１１時過ぎ、やっと雑用を済ませた。
研修会参加についての感想文を書く為に久しぶりに別棟の小屋に国語辞典と共に入り机に向かいましたが、室内の壁にかけてあるカレンダーは７月のページになっていて随分机に向かっていないんだなーと感じました。
少し室内の清掃と整理を始めたとき、ベッドの足元に青ダイショウの抜け殻（１６０ｃｍ位）を発見、一瞬、身を引き、びっくりしました。
やっぱり使用していないと来訪者が来ているんだー、それも連絡も無くにと…
さて参加感想は、以前よりボラティアレンジャーの事は自然を対象にしている事と、一度小樽の丸山で野草についての学習に妻と二人で参加し、ガイドの方より野草の花語やその花の名前が出てくる古文書の説明を聞いた事しかありませんでした。
しかし、今回の参加プログラムを見て少しボラレン活動の一部がわかりました。
それは、他の団体と連携も図り、同時に今回はボランティアレンジャーの育成も行なっている事等などです。
又、プログラムの内容についても、実践とアドバイザーとしても活動している事が理解できました。
私の今回の目的の一つは、個々の人々と、テーマや内容等についての幾つかの合意形成して行く時のプロセスについてです。
今回のプログラム作りは個人々の学習度合いと感性等の違いがあり、アドバイスを頂いた事は大変感謝しています。合意形成するには「自然の営み」が教科書となるのではないかと、ふと何となく思います。
そのためには学習（観察、記録、まとめ等）により、それを人に伝えて行く事が、ひょっとすると合意形成ができるプロセスではないかとも思います。
ふれあい交流館のスタッフの方々本当にありがとうございました。
ボラレンの方々のこのエネルギーは何処から来るのかは、これから一歩一歩の体験、体感していく行動に答えがあるのではとも思い感じました。
今日６日は、またノーベル賞化学分野の発表を聞き感動しているところです。

チョウのこと

苫小牧市　谷口勇五郎



エゾスジグロシロチョウ、♀、夏型（実物大）

６月末、苫小牧では30℃を超えた次の日、ファーブルの森・観察飼育舎（栗山町）に行きました。オオムラサキ（タテハチョウ科：国蝶）はまだ羽化していないので、その幼虫やさぎを見ました。それらはエゾエノキ（オオムラサキの食樹）の葉の色（保護色）なので、じっくり見ないと発見できません。木の枝を引っぱっていたら、「刺激を与えないで下さい」と注意されました。成虫発生期は７月から８月初めにかけてとのこと。１週間ぐらい早く出かけてしまったのです。そのチョウは北海道（札幌周辺や夕張・浜益・栗山など）・本州・四国・九州に分布し、苫小牧や白老にはいません。飼育舎内にはカラスアゲハ４～５匹とフタスジチョウ数匹が飛んでいました。ミヤマカラスアゲハの方は羽化が３週間ぐらい早いので今はいません。カラスアゲハ♂の１匹が地面で吸水しているので「吸水は♂だけですか」と聞いてみると「♀もたまにはある」とのこと。マイマイガの幼虫が舎内の所々に見られ駆除しているとのこと。１匹もらって飼うことにしました。これは害虫としてときどき新聞にも出ますが、食草はリンゴ・ナシ・ヤナギその他いろいろ食べるというので、サクラの葉を与えたら食べ、シナノキの葉も食べました。間もなく、サナギになり８月初め、羽化しました。

会員数三百余人の北海道昆虫同好会があります。昆虫といえば、体が小さく、種類が多いことです。会員の半分程の専門（興味）はチョウとなっています。チョウは昆虫の中では大きく、美しいですね。虫が嫌いでもチョウやトンボを嫌う人は少ないと思います。数mmの小さな虫はなかなか手に負えません。その点チョウは大きいので、絵合わせ的にだいたい同定できます。しかし、ミドリシジミ類（苫小牧で７種）はどれも良く似ていますし、キマダラヒカゲ類（２種）・ヒョウモンチョウ類もなかなか大変で手ごわい相手と思います。カラスアゲハ（食樹；キハダ・サンショウ・ツルシキミ）とミヤマカラスアゲハ（キハダ）は食樹も幼虫も良く似ていて、近縁なのですね。それに比べると、アゲハ（ミカン科）とキアゲハ（セリ科）も少し似ているところもありますが、食草や終齢幼虫になるとかなり違います。前者達よりも遠い間柄ということになるのでしょう。日本のチョウ目のチョウは240種（６科；内北海道には115種）、ガは約5,000種（60科）いるそうです。国内だけでなく、海外まで採集に出かける人もいます。チョウを扱うことの面白さは色々あるように思います。ちなみに、私は一応、昆虫全般（浅く広く）ということです。

《 会員の独自な活動の紹介コーナー》

当別町が実施している画期的な循環型コミュニティバス

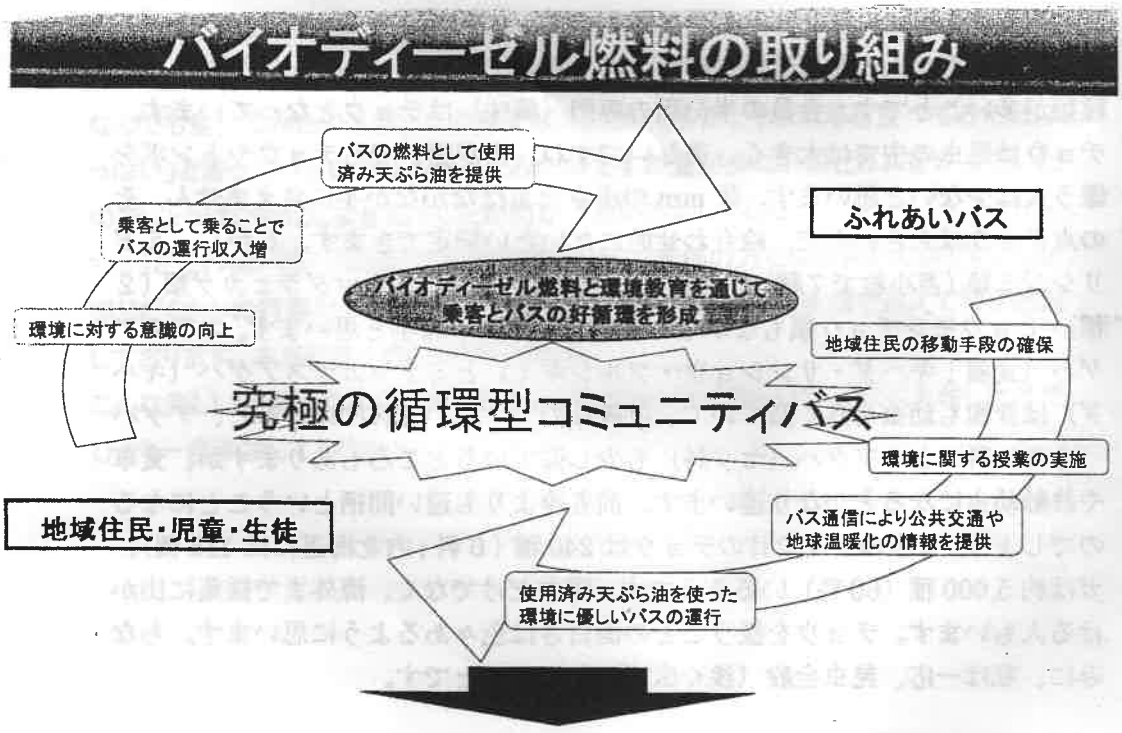
・地球温暖化に抗してバイオディーゼル燃料（使用済みのてんぷら油）を使用して

前号の「エゾマツ」（９３）でも紹介したように、副会長の五十嵐一夫さんが、環境省の主催の「地域からの環境型社会づくり」のシンポジウムで「当別ふれあいバスによるバイオマスディーゼル燃料活用の取り組み」というテーマでコミュニティバスについて発表された。

今日の地球温暖化を考えると、当別町が取り組んでいるこの未来的、実験的な試みは先進的で画期的なものと考えられる。そこで、その実施状況などを知り、会員の皆さんに伝えたいと思い、五十嵐さんより資料をいただいた。

市民に向けに書かれていて、専門性にふれながらもわかりやすくていねいに説明されている。そのほんの一部を掲載させてもらう。

なお、この当別町の循環型コミュニティバス事業の実施に関して、全国から自治体関係者など多くの人たちが研修に訪れているようである。



環境教育の実践 ～目的～

公共交通の利用促進のひとつ「モビリティマネジメント」を学校教育の場に取り入れる

モビリティマネジメント～個人の交通行動が社会的に望ましい方向（過度な自家用車利用から公共交通利用）へ自発的に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策

過度な自家用車利用が地球温暖化を促進させる
→ 地球温暖化が地球に与える影響
→ 自分の行動により発生する二酸化炭素の量を学ぶ

当別町で二酸化炭素の排出を抑えるには？

自家用車を控え、二酸化炭素を削減する交通行動を取る

バイオディーゼル燃料により路線バスを運行する

その対策は？

ふれあいバスなど公共交通機関を積極的に利用する

バイオディーゼル燃料の原料の使用済みてんぷら油の回収に協力する

授業で学んだ環境対策をすぐに実践に移すことができる
ふれあいバスの利用者増と使用済みてんぷら油回収の増加

▨ 谷口勇五郎さん著作「虫と自然ガイド」を発行

まさに虫の目で観察続けて

谷口さんには、広く調査し細やかに観察された虫などについて「エゾマツ」に連載で寄稿してくれている。それを一部として加えながらも、地元の人たちとの自然研究会などで発表されたものなどを集め、著作としてまとめられている。

＜虫＞を主なテーマとして、素人を超える専門的な知見をもとにとても分かりやすく、ていねいに書かれている。まさに「虫の目」で観察され説明されている。

勿論、虫を主題としながらも、地球温暖化や自然ガイドのあり方などにもふれられている。そうした意味では＜虫の目＞と共に＜鳥の目＞の眺望からも記述されている。　　：　定価　300円　送料　200円

▨ 丸瀬布の佐野亮二さん林野庁長官賞受賞

オホーツク支部で活躍されている佐野亮二さんが「平成22年度農林水産祭参加全国林業経営推奨行事」でこの賞を受賞された。北海道からは2人で、とってもすばらしい。会の仲間とともに喜びあいたい。今日の山林など自然破壊の状況を考えるとき、その価値はますます重みをもつていると思う。

平成２２年度　第２回役員会　　札幌エルプラザ　会議室

平成 22 年９月２日　18:30～20:00

欠席：五十嵐一夫、内山恭子、安倍隆、中林光司

Ｉ、会長挨拶　春日順雄

２，報告事項

●総務部　　三崎　篤

会員等動向についての報告　飯島奈央（江別市）は通信物が返送される。

●広報部　　佐藤清一

エゾマツ「秋季号９３号」６月１８日発行、自然 NOW の第５号　五十嵐予定　発行

●　研修部　小林英世

観察会・研修会の参加者（４月～８月）　会員２５０名　一般参加者　５１２名

（１）前期観察会報告（４月～８月）

月日	天気	観察会・研修会名	会員	一般参加者
４月 15 日（木）	晴れ	「春の花を見つけよう観察会下見」	８名	
４月 22 日（木）	晴れ	「春の花を見つけよう観察会」	１３名	７９名
４月 25 日（日）	晴れ	「セイヨウオオハナバチの防除」	２名	
５月８日（土）	晴れ	「春のありがとう観察会下見」	１１名	
５月９日（日）		「春のありがとう観察会」	１４名	３２名
５月２２日（土）		「恵庭公園観察会下見」	７名	
５月２３日（日）	晴れ	「恵庭公園観察会」	１０名	８名
５月２９日（土）		「三角山観察会下見」	６名	
５月３０日（日）	晴れ	「三角山観察会」	５名	２１名
６月５日（土）		「森の新緑観察会下見」	１２名	
６月６日（日）	晴れ	「森の新緑観察会」	１７名	１２５名
６月１２日（土）		「北広レクの森観察会下見」	８名	
６月１３日（日）	晴れ	「北広レクの森観察会」	９名	２１名
６月１９日～２０日		「様似山道研修会」	１０名	
７月３日（土）		「初夏の森観察会下見」	12 名	~~12 名~~
７月４日（日）	晴れ	「初夏の森観察会」	14 名	２０名
７月１１日（土）		「芸術の森観察会下見」	８名	
７月１２日（日）	晴れ	「芸術の森観察会」	８名	１０名
７月２４日（土）	雨	「オオハンゴンソウ防除の下見」	７名	
７月２５日（日）	晴れ	「オオハンゴンソウ防除」	１７名	２０名（15）
７月２９日（木）	雨	「夏の森観察会下見」	１０名	
７月２９日（木）	雨	「江別教育委員会観察会下見」	１５名	
７月３０日（金）	くもり	「江別教育委員会観察会」	１５名	８４名
８月６日（木）	晴れ	「夏の森観察会」	１４名	５４名

（事務局　掲載）

平成２２年度　第２回役員会　　札幌エルプラザ　会議室

平成 22 年９月２日　18:30～20:00

欠席：五十嵐一夫、内山恭子、安倍隆、中林光司

Ⅰ、会長挨拶　春日順雄

２，報告事項

●総務部　　三崎　篤

会員等動向についての報告　飯島奈央（江別市）は通信物が返送される。

●広報部　　佐藤清一

エゾマツ「秋季号９３号」６月１８日発行、自然 NOW の第５号　五十嵐予定　発行

●　研修部　小林英世

観察会・研修会の参加者（４月～８月）　会員２５０名　一般参加者　５１２名

（１）前期観察会報告（４月～８月）

月日	天気	観察会・研修会名	会員	一般参加者
４月 15 日（木）	晴れ	「春の花を見つけよう観察会下見」	８名	
４月 22 日（木）	晴れ	「春の花を見つけよう観察会」	１３名	７９名
４月 25 日（日）	晴れ	「セイヨウオオハナバチの防除」	２名	
５月８日（土）	晴れ	「春のありがとう観察会下見」	１１名	
５月９日（日）		「春のありがとう観察会」	１４名	３２名
５月２２日（土）		「恵庭公園観察会下見」	７名	
５月２３日（日）	晴れ	「恵庭公園観察会」	１０名	８名
５月２９日（土）		「三角山観察会下見」	６名	
５月３０日（日）	晴れ	「三角山観察会」	５名	２１名
６月５日（土）		「森の新緑観察会下見」	１２名	
６月６日（日）	晴れ	「森の新緑観察会」	１７名	１２５名
６月１２日（土）		「北広レクの森観察会下見」	８名	
６月１３日（日）	晴れ	「北広レクの森観察会」	９名	２１名
６月１９日～２０日		「様似山道研修会」	１０名	
７月３日（土）		「初夏の森観察会下見」	12名	~~１２名~~
７月４日（日）	晴れ	「初夏の森観察会」	１４名	２０名
７月１１日（土）		「芸術の森観察会下見」	８名	
７月１２日（日）	晴れ	「芸術の森観察会」	８名	１０名
７月２４日（土）	雨	「オオハンゴンソウ防除の下見」	７名	
７月２５日（日）	晴れ	「オオハンゴンソウ防除」	１７名	２０名（15）
７月２９日（木）	雨	「夏の森観察会下見」	１０名	
７月２９日（木）	雨	「江別教育委員会観察会下見」	１５名	
７月３０日（金）	くもり	「江別教育委員会観察会」	１５名	８４名
８月６日（木）	晴れ	「夏の森観察会」	１４名	５４名

（事務局　掲載）

●事務局　　室野文男

1．４月～６月、間伐前野生生物調査の結果報告　（詳細別掲載）

総計　調査　５日間、会員延べ人数　４０人　ふれあいセンター１４人

※野幌森林公園の試験場（Ｍ４３）時代に作成された樹木園の見学を行なう。

2．６月１６日（水）クリーンクリーン野幌森林公園　雨のため中止

参加者１０名全員へ電話連絡

3．７月２５日（日）オオハンゴンソウの防除にたいする関係機関との調整を行なう。

石狩森林管理署・野幌森林事務所　阿部直也

石狩地域森林環境保全ふれあいセンター　志鎌　睦

北海道開拓記念館総務部総務課（公園利用）　石井志郎

江別市生活環境部環境室　廃棄物対策課廃棄物対策係　五十嵐雅文

事務局への（保険代、ガイドブック、謝礼）　２万７千円会計へ渡す

4．７月３０日（金）江別市教育委員会観察会の参加者要請をする。

教員８４名に対し、本会員１５名がガイドを行なった。

5．９月９日（木）ボラレン育成研修会協力者会議の場所の設定、連絡作業を行う。

5．９月１０日（金）江別市対雁小学校４年生の総合学習観察会の参加者要請をする。

４クラス１１２名に対し、現在１１名の会員を確保する。関係者へ資料送付。

3．協議事項

（1）ボラレン展、９月１７日～２２日NHKホール　担当　田村、熊野、春日、内山

（NHKギャラリーへ作品等の搬入は９月１６日、13:00～15:00、　排出　２２日）

出展数の報告と会場当番について（熊野）　作品数　６６点　当番は熊野がまとめ後日発表

（2）育成研修会（１０月１日～３日予定）　　担当　菅美紀子

６月６日自然ふれあい交流館と最初の打ち合わせを行なう、松井説明

内山、今村、成田、菅、吉田、宮本、土屋、春日、五十嵐、室野、中西、（１１名）

８月６～13日　育成研修会協力者を選定、連絡をした結果以下の人員を確保（菅）

３日間：春日順雄、佐藤清一、伊藤秀平、三崎篤、五十嵐一夫、宮本健市、吉田政徳、土屋忠司、道場優、成田伸一、牧　茂　、室野文男、菅美紀子　（１３名）

２日間（金・土）：熊野美子、中西敏雄（２名）

２日目午後のみ：内山恭子（１名）

２日間（土・日）：小林英世、加納勝義（２名）

自然ふれあい交流館　松井と連絡、

１日目、オリエンテーション　佐藤
自然について……　宮本
２日目、プログラム作成　…　五十嵐
３日目、まとめ……　春日

９月９日（金）18:30～20:00　育成研修会協力者会議　札幌エルプラザ　２Ｆ会議コーナー

（3）オオハンゴンソウの防除について来年度も行なうかどうか。（詳細は別掲載）

①オオハンゴンソウの防除作業はセイヨウオオハナマルバチの防除とは違い。ボラレンが環境省から防除認定をもらって一般の人々に対して従事者証を発行して行なう主催事業である。　年に１回のイベントとして行なうだけであれば認定はいらない

③実施計画書（別紙掲載）に基づいて、行なわなければならない作業である。

オオハンゴンソウの野幌森林公園における生育状況についての調査、オオハンゴウソウ防除の今後の防除方法（効率的）の確立。モニターリングなどを行なうことになっている。

④酪農大学・環境科（吉田）がオオハンゴンソウの防除に関して動きだしました。

⑥当会がオオハンゴンソウの防除認定について再見当する必要がある。

8－2　　北海道ボランティア・レンジャー協議会

（4）観察会の記録整理・再利用について　（研修部　安倍　隆）

メーリングがない担当者はどのように報告するか、　ファックス等を利用する。

（5）後期観察会の当番（担当者）の決定

平成22年度　観察会・研修会予定　会員用

月	行事名	実施月日	下見	集合・解散場所		備考	当番
4	春の花を見つけよう	22日(木) 10:00～12:30	15日(木)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	室野・菅
	セイヨウオオマルハナバチ防除	25日(日) 9:30～12:00		恵庭公園駐車場集合・解散	主催	捕虫網持参	宮本・室野
5	春のありがとう観察会	9日(日) 10:00～14:30	8日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食・ごみ袋・軍手持参	小林・室野
	恵庭公園観察会	23日(日) 10:00～12:00	22日(土)	恵庭公園駐車場集合・解散	主催	昼食持参自由	小林・松井
	三角山登山観察会	30日(日) 10:00～14:00	29日(土)	緑花会館登山口集合・解散	主催	昼食持参	熊野・菅
6	森の新緑観察会	6日(日) 10:00～12:30	5日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	今村・内山
	北広島レクの森観察会	13日(日) 10:00～12:30	12日(土)	レクの森入口集合・解散	主催	昼食持参自由	佐藤・我妻
	模似研修会	19日(土)～ 20日(日)		アポイ岳研究支援センター前19日(土)13:00	主催		小林・五十嵐
7	初夏の森観察会	4日(日) 10:00～12:30	3日(土)	交流館集合・解散	主催	昼食持参自由	春日・小林
	芸術の森周辺観察会	11日(日) 10:00～12:30	10日(土)	芸術の森停留所前集合	主催	昼食持参自由	安倍・成田
	オオハンゴンソウ防除	25日(日) 10:00～12:30	24日(土)	交流館集合・解散	主催	昼食持参	室野・内山
	江別教育委員会依頼観察会	30日(金) 13:00～16:30	29日(木)	大沢口集合・解散	主催		熊野・菅
8	夏の森の観察会	5日(木) 10:15～12:30	7月29日(木)	村集合・瑞穂の池解散(時計回り)	共催	昼食持参自由	菅・室野
9	江別市対雁小学校4年生観察会	10日(金) 9:30～11:30		交流館集合・解散	主催		事務局対応
	秋の花でにぎわう森を歩こう	12日(日) 10:00～14:30	11日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	小林・三崎
	ボラレン会員作品展	17日(金)～ 22日(水)	搬入　16日	(会場)NHKギャラリー	主催	13:00～15:00	田村・熊野
10	育成研修会	1日(金)　～ 3日(日)		交流館・野幌森林公園内	共催		菅・五十嵐
	秋の森の匂いをかごう	14日(木) 10:15～14:30	7日(木)	村発著(交流館昼休憩)	共催	昼食持参	熊野・室野
11	晩秋の森観察会志分別コース	3日(水) 10:00～14:30	2日(火)	交流館集合・解散	主催	昼食持参	佐藤・春日
	秋のありがとう観察会	7日(日) 10:00～12:30	6日(土)	交流館集合・解散	共催	ごみ袋・軍手・昼食持参自由	今村・小林
	西岡水源地自然観察会	23日(火) 10:00～12:30	22日(月)	管理事務所前集合・解散	主催		熊野・伊藤
1	円山登山観察会	16日(日) 10:00～12:30	15日(土)	円山登山口集合・解散	主催		菅・熊野
	鵡川研修会	22日(土)　～ 23日(日)			主催		小林・春日
2	冬の森の観察会	13日(日) 10:00～12:30	12日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	室野・小林
	藻岩山登山観察会	20日(日) 10:00～14:30	19日(土)	慈啓会登山口集合・解散	主催	昼食持参	三崎・高松
3	森の中で春を探そう	20日(日) 10:00～12:30	19日(土)	交流館集合・解散	共催	昼食持参自由	菅・室野

（6）自然ふれあい交流館との共催観察会について

夏の森観察会　瑞穂解散・昼食持参自由について客先トラブルがあり、見当の予知あり

昼食持参自由について記載についての良し悪しの討論が行なわれた。

※交流館との共催観察会について来年度の事業計画が決まる前に打ち合わせ協議を行なう。

（7）来年度の事業計画について

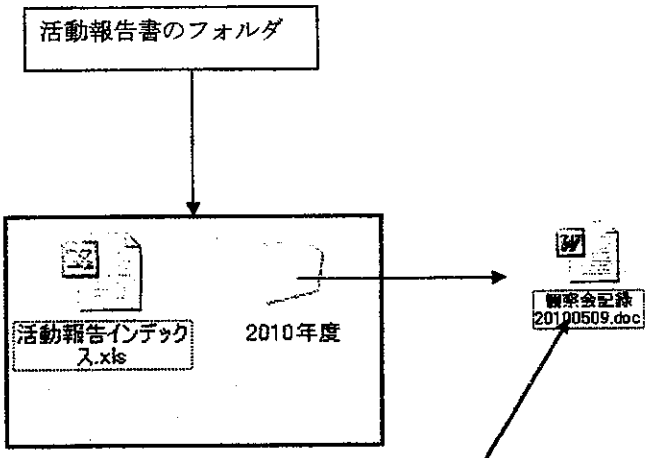
藻岩山登山観察会は来年度は廃止する。

観察会情報の下見、観察会の記録の整理再利用（研修部　　安倍隆）

観察会で得た情報を整理して、今後の観察会等に生かすためのテキスト、研修資料として活用する。

安倍氏による提案はエクセルによるデーターベース管理である。

①Word による報告文書ファイルを作成し、Excel にハイパーリンクさせる方法です。



ハイパーリンク

活動報告インデックス.xls の中身

北海道ボランティア・レンジャー協議会　活動報告書インデックス

年	月日	行事	場所	備考
	4月15日	「春の花を見つけよう」観察会＜下見＞	野幌森林公園	
	4月22日	「春の花を見つけよう」観察会	〃	
	5月8日	「春のありがとう観察会」＜下見＞	野幌森林公園	
	5月9日	「春のありがとう観察会」	〃	
	5月22日	恵庭公園観察会＜下見＞	恵庭公園	
	5月23日	恵庭公園観察会	〃	
	5月29日	三角山登山観察会＜下見＞	三角山	
	5月30日	三角山登山観察会	〃	
	6月5日	森の新緑観察会＜下見＞	野幌森林公園	
	6月6日	森の新緑観察会	〃	
	6月12日	北広島レクの森観察会＜下見＞	北広島レクの森	
	6月13日	北広島レクの森観察会	〃	
	6月24日	「クリーンクリーン野幌森林公園」	野幌森林公園	
	7月3日	初夏の森観察会＜下見＞	野幌森林公園	
	7月4日	初夏の森観察会	〃	
H22年	7月10日	芸術の森周辺観察会＜下見＞	札幌芸術の森	
	7月11日	芸術の森周辺観察会	〃	
	7月24日	オオハンゴウソウの防除＜下見＞	野幌森林公園	

観察会記録（当番：小林、室野）

日時	平成22年5月9日（日）10：00～14：30
天気	晴れ
コース	野幌森林公園　（A（カツラ・四季の美コース）、B（ふれあい・瑞穂連絡線）
参加者 50名	一般：32名 交流館：4名（濱本、扇谷、氏家、松井） ボラレン：14名（春日、小林、三崎、伊藤、佐々木、我妻、松井、室野、加納、三浦、土屋、牧、成田、千葉）

観察会概括

・「春のありがとう観察会」
・自然ふれあい交流館との共催
・テーマは「春の花」・「ゴミ拾い」
・道民カレッジ連携講座

野草	蕾状態：ユキザサ、マイヅルソウ、クルマバツクバネソウ、ツクバネソウ 開花：アキタブキ、エゾエンゴサク、エンレイソウ、ザゼンソウ、セイヨウタンポポ、ニリンソウ、ネコノメソウ、ヒメイチゲ、ミズバショウ、ミヤマスミレ、ナニワズ、ミヤマエンレイソウ、フッキソウ
樹木	開花：キタコブシ 芽吹き：カツラ
野鳥	目撃：アオジ、オオジシギ、カワラヒワ、シジュウカラ、ヒヨドリ 鳴き声のみ：ウグイス、クマゲラ、ヤマゲラ、アカゲラ
動物昆虫	
その他	

観察会に参加されている人の興味などが違うので参加者との会話等を通じて相手の反応を見ながらの観察会は疲れます。（室野）

・カツラの芽吹きが綺麗でした。殺風景な森にピンクの華やかさを添えていました。ところで、図鑑で見たら、カツラは雌雄異株なんですね。雄株も雌株もピンク色の芽吹きなんですか。（春日）

記入者：室野、春日、

（８）その他

保険について会員全員に保険を掛けるのを廃止し、行事用保険１本に集約する。

（９）第３回役員会議

２月３日（木）18:30～20:30　札幌エルプラザ　２階　会議室

参考資料

希少植物調査に関する報告（詳細）

４月２２日　観察会終了後、登満別園地駐車場　14:00～16:00

参加者　田村、春日、熊野、今村、菅、中西、土屋、宮本、室野、牧（１０名）

ふれあいセンター　志鎌、森本、松本、佐藤　（４名）

場所　４５林班　ん、へ　小班　　トドマツ林

４月３０日　登満別駐車場　10:00～12:00

参加者　田村、春日、熊野、今村、伊藤、室野　（６名）

ふれあいセンター　志鎌、森本、松本（３名）

場所　４１林班　な、ね　小班　　カラマツ、ストローブ林

５月８日　観察会下見後　元パークゴルフ場駐車場　14:00～16:00

参加者　春日、伊藤、中西、三浦、宮本、牧、池田、室野（８名）

ふれあいセンター　志鎌、森本、佐藤（３名）

場所　４１林班　の、ほ23小班　トドマツ、エゾマツ林

６月５日　観察会下見後　元パークゴルフ場駐車場　14:00～16:00

参加者　春日、佐々木、宮本、土屋、今村、三浦、松井、室野（８名）

ふれあいセンター　森本、佐藤（２名）

場所　４０林班　ほ小班　アカエゾマツ林

６月１２日　観察会下見後　元パークゴルフ場駐車場　14:00～16:00

参加者　春日、室野、宮本、牧（４名）

ふれあいセンター　志鎌、佐藤（２名）

場所　４０林班　た小班　トドマツ林

※天候不順で春先の４月、５月では調査ではフクジュソウ、クマゲラの食痕、だけ

６月の調査ではヤマシャクヤク、ユウシュンラン以外の発見はなかった。

希少植物調査の広報の遅れ、会員への連絡不徹底で調査人数が少なかった。

観察会や他の事業に関する参加要請について

突然、依頼があった観察会や他の事業に関する参加要請に関して北海道ボランティア・レンジャー協議会の意志決定は（受ける、受けない）はどのように行なえばよいのか？

事務局はどんなガイド要請についても意志は決定をしないでボラレン全員に参加要請（協議）を行なわなければならないのか？。

今まで、一度もキャンセルしたことはない。

江別市教育委員会、江別市対雁小学校４年総合学習観察会

ボラレン「野幌森林公園観察会・ゴミ拾い事業」支援要請等関するの緊急連絡体制

		①	②	③
役職名	氏名	メーリングリスト（アドレス）	Fax	電話
①会長	春日順雄	yorio12@jcom.home.ne.jp	○	881-4049
②副会長	五十嵐一夫	kazuo.igarashi@town.tobetsu.hokkaido.jp	○	01332-3-0604
③広報部	佐藤清一	（開拓の村）	○	373-6280
④	熊野美子	kumabeau514@jcom.home.ne.jp		
⑤	伊藤秀平	mail-ito@rouge.plala.or.jp		
⑥総務部	三崎　篤	Misakipiuka625@r4.dion.ne.jp	○	772-0563
⑦会計	橋場俊子	（千歳）		0123-24-5892
⑧研修部	小林英世	hideyof@mint.ocn.ne.jp　（現役）		0123-36-3944
⑨	今村ひろこ	mam_3210@ybb.ne.jp		
⑩	菅　美紀子	sugamiki@abox6.so-net.ne.jp		
⑪	安倍　隆	anbai@mec.edc.ac.jp　（現役）		
⑫	松井玲子	viola-3468-rei@docomo.ne.jp（現役）		090-3468-9633
⑬	中林光司	nakabayashi60@jcom.home.ne.jp（現役）		
⑭事務局	室野文男	fum-murono@hokkaidou.me	○	897-7186
⑮	内山恭子	ukhisui@kke.biglobe.ne.jp		
⑯顧問	田村允郁	nbk-tamura@star.ocn.ne.jp	○	791-0127
⑰野幌	佐々木幸夫		○	898-8177
⑱監査役	成田伸一		○	~~563-0222~~
⑲中央区	高松文雄			643-4881
⑳中央区	吉田政徳		○	563-0224
21 野幌	中西敏雄	qqxp3rr99@abeam.ocn.ne.jp		
22 野幌	土屋忠司		○	383-9376
23 野幌	牧　茂			898-0391
24 千歳	宮本健市	kenmiya@r7.dion.ne.jp		0123-28-4720
25 清田	加納勝義	kano3-4@eos.ocn.ne.jp		
26 啓成高	三浦治彦	urin-m@hokkaido-c.ed.jp		
27 北広島	我妻庄三			373-8773
28 手稲	原田和彦	kaz-harada@jazz.email.ne.jp		
29 手稲	山田光輝			682-6450
30 江別	千葉　到	i-chiba@almond.ne.jp		
31 江別	阿部　徹	現役、		382-5811
32 百合丘	道場　優	masad860@blue.ocn.ne.jp		
33 麻生	池田政明	ecology@cocoa.ocn.ne.jp		
34 北区	阿部　忠	tt.abe@ae.wakwak.com		
35 石狩市	畑中悠二			090-1250-6382

※役員、積極的な活動家に対して①メーリングリスト、②ファックス連絡、③電話連絡で行なう。

月	行事名	主・共	実施日	天気	担当者(当番)	参加者
4	「春の花を見つけよう」観察会 下見	共催	15日(木)	晴れ、	室野・菅	田村、春日、三崎、中西、土屋、宮本、菅、室野 (6名)
	「春の花を見つけよう」観察会	共催	22日(木)	晴れ、	室野・菅	田村、春日、佐々木、牧、土屋、中西、宮本、熊野、今村、成田、菅、室野、千葉 (13名) 一般参加者 79名 濱本、爾谷、松井、工藤
	「野鳥間伐前野生生物」調査①	協力	22日(木)	晴れ、	室野	センター 志鎌、山本、松本、佐藤(4名) ボラレン 田村、春日、土屋、中西、熊野、今村、宮本、成田、菅、室野(10名)
	セイヨウオオマルハナバチの駆除	主催	25日(日)	晴れ、	宮本	天候不順で花が咲かないため中止、会員連絡の方法がない(現地 室野)
	「野鳥間伐前野生生物」調査②	協力	30日(木)	曇り・雨	室野	センター 志鎌、山本、松本、(3名) ボラレン 田村、春日、伊藤、熊野、今村、室野(6名)
5	第1回目 役員会議		7日(金)	雨	室野・内山	春日、五十嵐、佐藤、小林、三崎、熊野、今村、伊藤、梭場、菅、松井、内山、安倍、室野、成田(15名)、中林、高橋(欠席)
	「春のありがとう」観察会 下見	共催	8日(土)	曇り・雨	室野・小林	交流館・濱本、爾谷(2名) 会員:春日、伊藤、中西、土屋、山王、宮本、三浦、池田、牧、加納、室野(11名)、交流館(松井・山本)
	「野鳥間伐前野生生物」調査③	協力	8日(土)	雨	室野	センター 志鎌、森本、佐藤(3名)、春日、伊藤、中西、宮本、三浦、牧、池田、室野(8名)
	「春のありがとう」観察会	共催	9日(日)	晴れ、	小林・室野	当番:小林、室野 会員:春日、三崎、伊藤、佐々木、我妻、松井、加納、三浦、土屋、牧、成田、千葉(14名) 一般参加者 32名、濱本、爾谷、氏家、
	「恵庭公園」観察会 下見	主催	22日(土)	晴れ、	小林・松井	当番:小林、松井、 会員:我妻、阿部(徹)、室野、牧、菅 7名
	「恵庭公園」観察会	主催	23日(日)	晴れ、	小林・松井	当番:小林、松井 会員:春日、佐藤(清)、成田、梭場、三崎、伊藤、、阿部(徹)、宮本(10名)、一般参加者 8名
	「三角山登山」観察会 下見	主催	29日(土)	晴れ、	熊野・菅	当番:熊野、菅 会員:牧、中西、室野、高橋 6名
	「三角山登山」観察会	主催	30日(日)	晴れ、	熊野・菅	当番:熊野、菅 会員:春日、三崎、道場 (5名) 一般参加者 21名
6	「森の新緑」観察会 下見	共催	5日(土)	晴れ、	今村・内山	当番:内山、今村 会員:春日、田村、横口、佐々木、牧、山田、三浦、宮本、室野、土屋 (12名) 交流館:濱本、爾谷
	「野鳥間伐前野生生物」調査	協力	5日(水)	晴れ、	室野	当番:室野 、会員:佐々木、春日、宮本、土屋、今村、三浦、松井 (8名) センター:森本、佐藤
	「森の新緑」観察会	共催	6日(日)	晴れ、	今村・内山	当番:内山、今村 会員:五十嵐、小林、春日、伊藤、中西、我妻、佐々木、成田、牧、土屋、三浦、山田、吉田、宮本、室野(17名) 一般参加者 125名
	青岸研修会打ち合わせ①	共催	6日(日)	晴れ、	菅・五十嵐	内山、今村、成田、菅、吉田、宮本、土屋、春日、五十嵐、室野、中西、 松井説明
	「北広島レクの森」観察会 下見	主催	12日(土)	晴れ、	佐藤・我妻	当番:佐藤、我妻 会員:春日、中西、宮本、室野、阿部(徹)、牧 (8名)
	「野鳥間伐前野生生物」調査	協力	12日(土)	晴れ、	室野	ふれあいセンター:志鎌、佐藤 (2名) 、室野、春日、宮本、牧(4名)
	「北広島レクの森」観察会	主催	13日(日)	晴れ、	佐藤・我妻	当番:佐藤、我妻 会員:春日、熊野、三崎、山田、宮本、室野、阿部(徹) 一般参加者 20名
	広報誌「エゾマツ」93号 発行				佐藤・熊野	
	継続研修	主催	19・20日	13:00~13:30	小林・五十嵐	報告なし
	「クリーンクリーン野幌森林公園」	協力	24日(木)	雨・中止	春日・室野	中止電話連絡 :参加予定者 春日、田村、伊藤、三崎、菅、内山、宮本、牧、熊野、室野、阿部 11名
7	初夏の森観察会 下見	主催	3日(土)	晴れ、	春日・小林	当番:春日、田村、菅、牧、阿部(徹)、山田、宮本、佐々木、室野、加納、土屋、三浦 12名
	初夏の森観察会	主催	4日(日)	晴れ、	春日・小林	会員:14名 佐々木・内山・菅・加納・安倍・土屋・成田・山田・伊藤・我妻・宮本・三浦・春日 室野、一般参加者 20名
	芸術の森周辺観察会 下見	主催	10日(土)	10:00~12:30	成田・安倍	報告なし
	芸術の森周辺観察会	主催	11日(日)	曇り	成田・安倍	会員8名 安倍、成田、春日、宮本、宮野、熊野、吉田、三浦、 一般参加者 10名
	オオハンゴンソウ防除 下見	主催	24日(土)	曇り、雨	室野・内山	7月24日 会員7名 内山・室野、春日、佐藤(清)、中西、牧、三崎 7月25日 ふれあいセンター: 志鎌、松本、森本、佐藤 記念館: 石井
	オオハンゴンソウ防除	主催	25日(日)	晴れ、	室野・内山	会員17名 内山、室野、春日、佐藤(清)、牧、三崎、安倍、田村、成田、阿部、畑中、土屋、佐々木、松井、千葉、加納、宮本 一般参加者 15名
	「夏の森」・「江別教育委員会」 下見	共催	7月29日(	曇雨	菅・室野	当番:室野、菅、宮本、牧、加納、田村、佐藤、中西、土屋、伊藤 (江別:佐々木、熊野、吉田、内山、成田、)
	江別市教委観察会(参加要請)	主催	30日(金)	曇り	菅・熊野	10班、会員15名、佐々木、牧・中西、土屋、田村、伊藤、熊野、成田・内山、宮本、菅・加納、吉田・室野 教員 84名
8	夏の森の観察会	共催	5日(水)	晴れ、気温30℃	菅・室野	会員:14名 佐々木・菅・加納・土屋・成田・山田・我妻・宮本・春日・室野・牧・宮本・田村・佐藤 一般参加者 54名 濱本・爾谷(村)
9	第2回 役員会議	主催	2日(木)	18:30~20:30	内山・室野	欠席者 五十嵐一夫 内山恭子
	オホーツク支部秋季研修会	主催	4~5日	15:00~	法師人春輝	ボラレン・オホーツク支部 0152-43-1942 「やすらぎ①宿 E&Eあばしり」 網走市呼人半島の観察会等 参加費6000円
	青岸研修会協力者会議	共催	9日(木)	18:30~20:30	菅・室野	吉田、小林、成田、三崎、伊藤、佐藤、中西、熊野、春日、内山、宮本、加納、五十嵐、牧、土屋、道場、菅
	江別市対象小学校4年生総合学習	主催	10日(金)	9:30~11:30	室野	吉田、成田、牧、土屋、熊野、佐々木、我妻、佐藤、伊藤、
	「秋の花でにぎわう森を歩こう」 下見	共催	11日(土)	10:00~14:30	小林・三崎	共催:自然ふれあい交流館(指定管理者:財団法人北海道開拓の村)
	「秋の花でにぎわう森を歩こう」	共催	12日(日)	10:00~14:30	小林・三崎	共催:自然ふれあい交流館(指定管理者:財団法人北海道開拓の村)
	ボラレン会員作品展	主催	17~22日			主催

《北の芸術家シリーズ》①……この大地、海をどう表現してきたのか

◆生命、自然の根源的なものを表現しつづけた砂澤ビッキ
＜ その代表作「四つの風」の一部倒壊にふれて＞

広報部

砂澤ビッキさんが1986年に「芸術の森」に制作した「四つの風」の一部が倒壊してしまった。続いて1981年に音威子府村にある北大中川研究庁舎の入り口にある「思考の鳥」の一つ「キツツキ」が朽ち果てたことがわかり、中央にある「エゾシカ」は既に朽ちていたし、もう一つの「フクロウ」だけが原形をとどめている、と報道されている。ビッキさんの代表的作品の二つが朽ち果て倒壊してしまっている。その場を管理する人たちは彼の意思を尊重して倒壊のままに展示して置くことにしている。適切な判断であると思う。

７年前、私は「芸術の森」で彫刻を展示する広場を見学した。著名な芸術家のブロンズの作品が多く、面白いデザインの作品もあったが、この森にふさわしいのはビッキさんの「四つの風」であると思った。

アカエゾマツの４つの原木に僅かに鑿（のみ）の跡を入れ東西南北に向けて配置していた。風雪を受容しながも、外に向かって何かを発信し続けて屹立（きつりつ）する作品であった。彼の造語で深遠な言説である「樹気」（きき）が表現されているように思われた。

ビッキさんは、この作品の制作に関して、「自然は、風雪という鑿を加えてゆくはずである」いうステキナの言説を残している。芸術作品も自然の生成、衰退、解体という循環のなかでの一つの生きたものとしての造形でしかないのであろう。

音威子府の「思考の鳥」は残念ながら見る機会はなかった。倒壊した姿は写真からしかわからないが、この三つのポールは北の動物たちの世界、すなわち草原を走りまわる「エゾシカ」，樹木のなかに穴をあけ虫たちを探す「キツツキ」、それらを静かに凝視している思考の鳥「フクロウ」という構図なのだろうか。「思考の鳥」という題名はミネルバのフクロウなどを想起させてくれておもしろい。

旭川に住んでいた時、彼の作品を二度ほど見る機会があった。正直に言って私の鑑賞能力を超えていた。だが、それらは生命や自然の本質にせまる魅力に富んだ暗喩があった。

彼の若い頃の作品に「文様デザイン帖」、単純にくりかえす動的な構図は、現在、解明が進むなかで、生命をつかさどるＤＮＡのラセン構造に似ているよう

続きは「秋の観察会に参加して」の欄に

編　集　後　記

・表紙は熊野さんが“晩秋のシューパロ湖”をスケッチしたものです。ツルウメモドキが少し残っていて美しかったそうです。

・今回は、自然ふれあい交流館副館長の松井さん、観察会に、オオハンゴンソウの防除に、育成研修会に参加された方々、そして会員の仲間から多くの原稿をいただきました。感謝しています。

・また、この度は江別市の教職員、対雁小学校４年生、江陽中学校の自然をテーマとしたグループの皆さんを野幌森林公園で案内することができうれしく思っています。生徒のみなさんの柔らかな感性に支えられた鋭くもこまやかに観察する力をもっていることに改めて感心しました。対雁小学校のみなさんから心あたたまる感想文をいただきました。さらに江陽中学１年生徒代表の竹澤太貴さんからうまくまとめたステキな原稿をいただきました。ぜひ読んでみてください。なお、担当してくれた千日坂先生の生徒の紹介文に寄せられた手紙によると、生徒たちの研究の成果を模造紙にまとめて発表しているそうです。

・昨年に続き、今年も約１万本の「オオハンゴンソウ」を防除しました。私たちのほかに市民の皆さん１５人、石狩地域森林環境保全センターからも４名の参加、その上、いろいろな支援をいただきました。今後とも外来種の防除を進めていきたい。

・私たちの「オオハンゴンソウ」防除に関して「野幌森林公園要覧　2010」（開拓記念館　発行）に「特定外来植物のオオハンゴンソウが生育範囲を広げており、防除認定を受け北海道ボランティア・レンジャー協議会などが防除を行っています。」と記されています。

・９月 17 日ー22 日まで、ＮＨＫギャラリー行われた「作品展」は、会員の力作がそろいＮＨＫの番組の中でも取りあげてもらって好評でした。特に牧茂さんの同じ洞（うろ）に、あるときはフクロウ、別のときは子どものアライグマが共用したユーモラスな写真が面白かった。実行委員会の会長をされた田村さんをはじめ皆さんご苦労さまでした。今後もできれば「作品展」を実施していきたいものです。

・会員の五十嵐一夫さん、佐野亮二さん、谷口勇五郎さんの活躍を紹介しています。

・<忘年会>は１２月４日（土）、午後６時から　場所　<北のささや>
　　札幌市北区北７条西１丁目　　NSS ビル地下１階
　＊三崎さんに電話などで１２月１日まで連絡を　詳しくは別のページでも確認を
　　Ｔｅｌ・Fax　　０１１－７７２－０５６３

・次号は来年１月末発行予定。原稿は１月 15 日まで広報部、北広島の佐藤まで。

「エゾマツ」　２０１０年１０月25日　発行
秋季号　９４号　　会長　春日　順雄